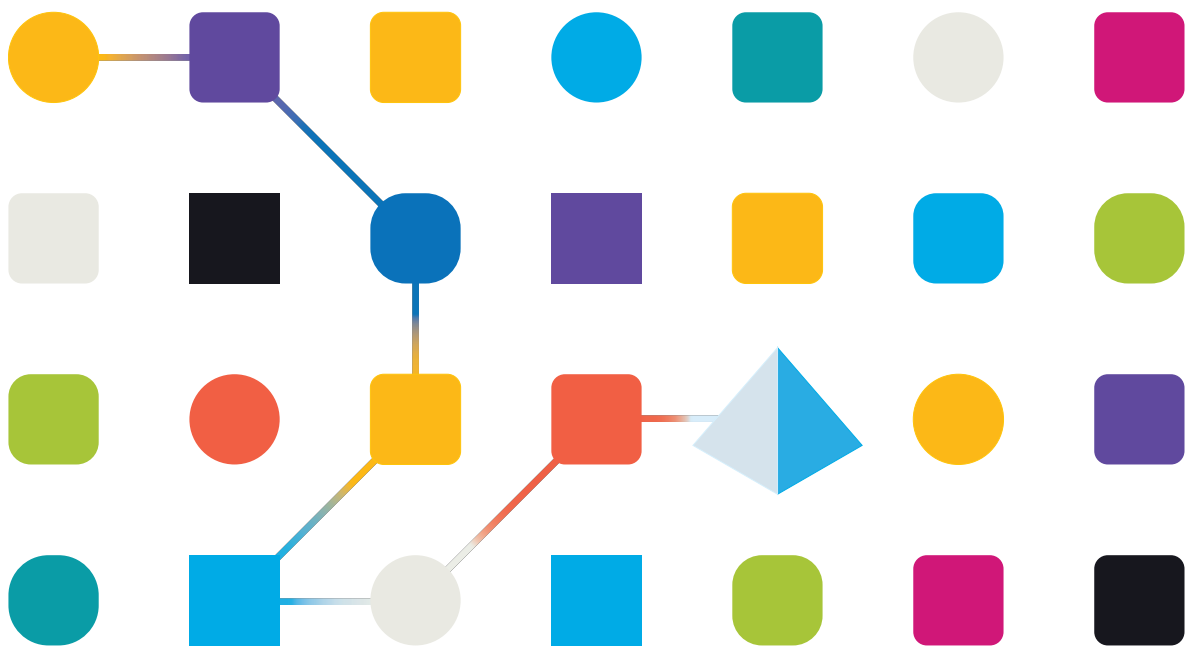


blueprism[®]

Hub 4.7
リリースノート

Document Revision: 3.0



商標および著作権

本ガイドに記載されている情報は、Blue Prism Limitedおよび/またはその関係会社が独占的に所有する機密情報であり、権限を与えられたBlue Prism担当者の書面による同意なしに、第三者に開示してはなりません。本文書のいかなる部分も、複写機などの電子的あるいは機械的な形式や手段を問わず、Blue Prism Limitedまたはその関係会社の書面による許可を得ることなく、複製または送信してはなりません。

© Blue Prism Limited 2001 – 2023

Blue Prism、Blue Prismのロゴ、およびPrismデバイスは、Blue Prism Limitedおよびその関係会社の商標または登録商標です。All Rights Reserved.

その他のすべての商標は本文書によって確認され、各所有者のために使用されています。

Blue Prism Limitedおよびその関係会社は、本ガイドで言及する外部Webサイトの内容に関して、責任を負いません。

Blue Prism Limited, 2 Cinnamon Park, Crab Lane, Warrington, WA2 0XP, United Kingdom。
英国で登録:登録番号4260035。電話:+44 370 879 3000。Web:www.blueprism.com

内容

リリースノート	4
Hub 4.7 – 2023年1月	4
HubとInteractをアップグレードする	9
HubとInteract 4.6をバージョン4.7にアップグレードする	9
Blue Prism Data Protectorツール	16
旧リリース	18
Hub 4.6 – 2022年6月	18
Hub 4.5 – 2021年11月	34
Hub 4.4.1 – 2021年10月	37
Hub 4.4 – 2021年9月	39
Hub 4.3 – 2021年5月	45
Hub 4.2 – 2021年4月	48
Hub 4.1 – 2020年11月	50
Hub 4.0 – 2020年9月	52


リリースノート

Hub 4.7 – 2023年1月

このリリースノートは、Blue Prism Hub 4.7リリース用です。

機能強化

このバージョンのHubには、次の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明	参考資料
インストール	<p>Blue Prism Hubとそのコンポーネントは、次を使用するように更新されました。</p> <ul style="list-style-type: none">• .NET 6.0• .NET Framework 4.8 <p>インストーラーとアップグレーダーの両方が、これらの前提条件を反映するように更新されました。</p> <p>ダウンロード情報については、「」Blue Prism Hubインストールガイド」を参照してください。</p>	HUB-4058 HUB-5308
	<p>暗号化された接続文字列が使用されるようにセキュリティが強化されました。SQL Serverは信頼できる証明局によって発行された証明書を使用して、SSL暗号化を使用するように構成する必要があります。自己署名証明書はこの機能強化の要件を満たすには不十分です。インストーラーとアップグレーダーの両方が、このセキュリティ強化を反映するように更新されました。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"><p> アップグレードするシステムでSQL ServerがSSL暗号化を使用するように構成されていない場合、Hubアプリケーションの接続文字列はアップグレーダーを実行する前に手動で構成する必要があります。詳細については「HubとInteractをアップグレードする ページ9」を参照してください。</p><p>本番環境では、信頼できる証明局からの証明書を使用します。ただし自己署名証明書は概念実証または開発環境に使用できます。重要なのは、SQL Serverが使用するFQDNが証明書で定義されるFQDNと一致することです。これらが一致しない場合、データベースへの接続が確立されずインストールが正しく機能しません。自己署名証明書の使用と構成については、Blue Prism Hubインストールガイドの「」自己署名証明書」を参照してください。</p></div>	HUB-6630 HUB-6642

エリア	変更の説明	参考資料
認証設定	<p>I 認証設定 ページが更新され、Security Assertion Markup Language 2.0 (SAML 2.0) 認証が追加されました。</p> <p>SAML 2.0認証はドメイン間のシングルサインオン(SSO)を許可し、Authentication ServerがインストールされているホストWebサーバーに Authentication Server SAML 2.0拡張機能がインストールされている場合のみ、Authentication設定ページに表示されます。Authentication Server SAML 2.0拡張機能インストーラーと関連するインストールガイドは、Digital Exchange からダウンロードできます。</p> <p>認証設定ページから次のアクションを実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SAML 2.0認証を有効化または無効化する。 • SAML 2.0プロバイダー設定を構成する。 • すでに構成されているSAML 2.0プロバイダーを削除する • CSVファイルから複数のSAML 2.0ユーザーを追加する。 <p>SAML 2.0を使用してログインするよう構成されたAuthentication Serverユーザーには、ログイン画面に [SAML 2.0 provider name>を使用してログイン] ボタン(たとえば、Azure ADを使用してログイン)が表示されます。</p> <p>Hub管理者が認証設定ページで有効な認証タイプを無効にしようとする、有効な別の認証タイプを使用してログインするよう構成されているアクティブな管理者ユーザーがいるかどうかをチェックするプロセスが実行されるようになります。別の認証タイプの管理者ユーザーが見つからない場合、選択した認証タイプは無効にできません。</p> <p>詳細については、「」Hub管理者ガイド」を参照してください。</p>	<p>HUB-4597</p> <p>HUB-5498</p> <p>HUB-4958</p> <p>HUB-4967</p> <p>HUB-5523</p> <p>HUB-4960</p>
環境管理	<p>接続を編集 ページの データベース構成 セクションと データベース認証 セクションのすべてのフィールドを編集できるようになりました。ただし編集するのは、パラメーターが間違っている場合、またはデータベースパスワードが変更された場合に接続が失われるのを防止する目的に限定されます。</p> <p>詳細については、「」Hub管理者ガイド」を参照してください。</p>	<p>HUB-6626</p>
ユーザー	<p>認証設定ページでSAML 2.0認証が有効になっており、SAML 2.0プロバイダーが構成済みの場合、Hub管理者は ユーザーを追加 ページで個々のSAML 2.0ユーザーを追加できます。</p> <p>追加されたSAML 2.0ユーザー という新しい監査イベントが追加されました。</p> <p>またはHub管理者がCSVファイルからユーザーをアップロードすることで、認証設定 ページから複数のSAML 2.0ユーザーを同時に追加することもできます。アップロードするとユーザーが ユーザー ページに表示され、編集または廃止できるようになります。この方法で作成されたユーザーには独自の監査ログエントリが作成され、スキップされたり追加できなかったりしたすべてのユーザーの詳細もそこに記録されます。CSVファイルに含めるエントリは1000を超えないようにすることが推奨されます。</p> <p>SAML 2.0プロバイダーがAuthentication Serverから削除されると、そのプロバイダーを使用するよう構成されたすべてのユーザーが廃止されます。</p> <p>詳細については、「」Hub管理者ガイド」を参照してください。</p>	<p>HUB-4963</p> <p>HUB-4959</p> <p>HUB-4962</p> <p>HUB-4970</p> <p>HUB-5023</p> <p>HUB-4968</p> <p>HUB-4969</p>

修正と改良

このバージョンのHubには、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明	参考資料
Active Directory認証	Active DirectoryユーザーのUPNIにActive Directoryドメインのドメインネームシステム(DNS) 名と異なるエイリアスサフィックスが含まれている場合、そのユーザーを同期し、Authentication Serverにログインできます。たとえば corp.dir.company.com(DNS名) とcompany.com(エイリアスサフィックス) の場合に、UPNがjohn@company.comのケースです。管理者が手動で構成する場合を除き、ユーザーに使用可能なエイリアスサフィックスはAuthentication Serverで自動的に決定されます。詳細については、「 Authentication Serverのトラブルシューティング 」を参照してください。	HUB-5599
	Authentication Serverに追加するActive Directoryユーザーまたはセキュリティグループを検索する場合、 [ユーザーを追加] ページと [役割を作成] ページの 検索ルート フィールドにデフォルト値が表示されるようになりました。この値は Authentication Serverをホストしているサーバーの現在のフォレストルートドメインの識別名(DN) に対応します。	HUB-5452 HUB-5453
	Control Roomプラグインに以前アクセスしていた無効なActive Directoryユーザーは、Authentication Serverから自動的にログアウトされ、Control Roomプラグインにアクセスしようとするログインページにリダイレクトされます。以前は Welcomeページに誤ってリダイレクトされていました。	HUB-5930
	ユーザーのActive Directoryグループメンバーシップを認証中に決定する際のパフォーマンスが一部改善しました。詳細については、「 Authentication Serverのトラブルシューティング 」を参照してください。	HUB-5864
	検出されたActive Directoryドメインをキャッシュが保存する最大時間のデフォルト値が1440分に増加しました。以前のデフォルトは30分でした。詳細については、「 Authentication Serverのトラブルシューティング 」を参照してください。	HUB-5855
	Email Service	Email Serviceに新たにログが追加され、web.configファイルの構成が正しくなかったためにSMTP設定が失敗したケースがそのログに記録されるようになりました。
一般	Hubリポジトリによって使用されるnewtonsoft.jsonパッケージが最新バージョンに更新され、デフォルトが安全でないことから生じる 脆弱性 が排除されました。Authentication Serverも更新され、Duende IdentityServer 6.0が使用されるようになりました。	HUB-2637 HUB-4016
License Manager	License ManagerはRabbitMQを利用できない場合でも、HTTPリクエストを正しくリッスンして応答するようになりました。以前はRabbitMQが利用できない場合、License ManagerはHTTPリクエストをリッスンしませんでした。	HUB-4613
ログイン	アプリケーションプールのリサイクル後にログインした後にHubタイルが無効になる既知の問題が修正されました。	HUB-5054
	Blue PrismインタラクティブクライアントからAuthentication Serverを使用してサインインすると、Blue Prismログインページで選択した言語がAuthentication Serverログインページに反映されるようになりました。	HUB-5932
役割と許可	[役割と許可] ページで使用されるフィルターによりテーブルが空になる場合、Active Directoryグループを役割に追加した後も、ページネーションの矢印がこのページに表示されたままになる問題が修正されました。	HUB-5924

エリア	変更の説明	参考資料
サービスアカウント	サービスアカウントクライアントIDが大文字と小文字を区別する設定に変更されました。以前はあるクライアントIDに'Test'、別のクライアントIDに'test'と名前を付けるとエラーが発生していましたが、どちらもエラーなしで同時に使用できるようになりました。	HUB-5290
	[サービスアカウント] ページでアイテムをフィルタリングおよび選択する際に、フィルターが削除されると選択が解除される問題が修正されました。	HUB-5931
ユーザー	ページの読み込みが終了する前にユーザーが [ユーザーを追加] ボタンをクリックすると、[ユーザー] ページでテーマを選択できない問題が修正されました。	HUB-4824

プラグインの更新

Automation Lifecycle Management(ALM)

このリリースでは、ALMプラグインは変更されていません。

Control Room

エリア	変更の説明	参考資料
スケジュールマネージャー	スケジュールマネージャーでスケジュールを編集する場合、間隔の種類を更新時に [繰り返し - 間隔] プロパティがデフォルト値にリセットされるようになります。以前は間隔の種類が変更されたとき、一部のプロパティは値を保持していました。	HUB-2380

Decision

このリリースでは、Decisionプラグインは変更されていません。

Interact

Interactプラグインの改善と修正については、「[Interact 4.7リリースノート](#)」を参照してください。

既知の問題

このリリースに関する重大な問題のリストについては、次のナレッジベースで維持されます。

- Hubの既知の問題については、[こちら](#)をクリックしてください。
- Decisionの既知の問題については、[こちら](#)をクリックしてください。

セキュアな開発ポリシー


Blue Prismのセキュアな開発プロセスは、市場をリードする組み込み型のセキュリティ文化であり、次の4つの主要原則を通じて優れたセキュリティを提供することに重点を置いています。

- 教育 – 最新の知識、情報、トレーニングを開発チームに提供します。
- 評価 – 業界標準のフレームワークとセキュリティツールを使用して、当社製品を定期的にレビューします。
- 排除 – 基準、コンプライアンス、パフォーマンスの評価を通じて潜在的な脅威を取り除きます。
- 進化 – 当社のセキュリティプログラムを継続的に改善して、当社の製品技術との整合性を確保し、新たな脅威に効果的に対応します。

Blue Prismのセキュアな開発は、OWASP ASVS、ISO 27034、GDPR第25条の標準と慣行に基づいています。詳細については、Blue Prismの「[包括的でセキュアな開発プロセス](#)」を参照してください。

HubとInteractをアップグレードする

HubとInteractのアップグレードは、専用ツールを使用するシンプルなプロセスです。現在使用しているバージョンから、順番にアップグレードツールを実行する必要があります。このセクションでは、以前のリリースから最新のリリースへのアップグレードについてのみ説明します。アップグレードプロセスの詳細については、「[Blue Prism HubとInteractアップグレードガイド](#)」を参照してください。

 アップグレードが完了したらHubにログインし、CTRL + F5を押してキャッシュをクリアするようユーザーに指示します。これにより、すべてのWebページが更新され、ユーザーインターフェイスの変更が確実に更新されます。

HubとInteract 4.6をバージョン4.7にアップグレードする

このアップグレードではBlue Prism Hub、Blue Prism Interact、および次の.NETコンポーネントを使用するサポートサイトが更新されます。


- .NET Desktop Runtime 6.0.9、または6.0.10
- ASP.NET Core Runtime 6.0.9、または6.0.10(Windowsホスティングバンドル)
- .NET Framework 4.8 – Windows Server 2022にデフォルトでインストールされています。

このアップグレードではSSL暗号化要件も徹底されます。詳細については、「[前提条件下](#)」を参照してください。

営業時間外にアップグレードを実行するようスケジュールを立てることをお勧めします。

前提条件

- HubとInteractのバージョン4.6がインストールされている。
- 全員がAuthentication Serverからログアウトしている。
- すべての関連データベースをバックアップ済み。データベースはアップグレードの影響を受けませんが、アップグレードを実行する前にデータベースをバックアップすることをお勧めします。
- Hubおよび/またはInteractのインストール先サーバーに2.5GBの空きディスク領域 - インストールプロセスが完了するまで作成されるバックアップに必要です。以前のアップグレードからバックアップを削除します。
- SQL ServerはSSL暗号化を使用するように構成する必要があります。所属組織がSSL暗号化をまだ使用していない場合 (SQL Serverの環境を証明書なしで実行しているか、自己署名証明書を使用している)、組織は信頼できる証明局から証明書を取得し、SQL Serverにインポートして有効にする必要があります。-詳細については、「[Microsoftドキュメント](#)」を参照してください。

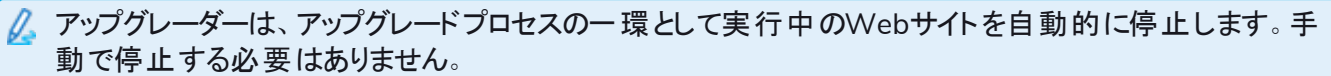
 SQL ServerにSSL暗号化を使用したことがない場合は、アップグレーダーを実行する前に、Blue Prismアプリケーションのアプリケーション設定ファイルの接続文字列を更新する必要があります。詳細については、「[アプリケーション設定を更新する次のページ](#)」を参照してください。

本番環境では、信頼できる証明局からの証明書を使用します。ただし自己署名証明書は概念実証または開発環境に使用できます。重要なのは、SQL Serverが使用するFQDNが証明書で定義されるFQDNと一致することです。これらが一致しない場合、データベースへの接続が確立されずインストールが正しく機能しません。自己署名証明書の使用と構成については、Blue Prism Hubインストールガイドの「[自己署名証明書](#)」を参照してください。

証明書をSQL Serverにインポートするには:

1. Windowsタスクバーから **[SQL Server構成マネージャー]**を開きます。
2. SQL Server構成マネージャーで **[SQL Serverネットワークの構成]**を展開し、**[SqlServerInstanceName>のプロトコル]**を右クリックして **[プロパティ]**をクリックします。

3. {SqlServerInstanceName>のプロトコルのプロパティ] ダイアログで、**証明書**]タブを選択し、必要な証明書を選択またはインポートします。
4. **適用**]をクリックします。

 アップグレーダーは、アップグレードプロセスの一環として実行中のWebサイトを自動的に停止します。手動で停止する必要はありません。

アプリケーション設定を更新する

SQL ServerにSSL暗号化を使用していない場合にのみ、Blue Prismアプリケーションのappsettings.jsonファイルを更新する必要があります。アプリケーション設定は、Blue Prismが作成したスクリプトを使用して、または手動で更新できます。

スクリプトを使用してアプリケーション設定を更新するには:


1. SQL Serverに証明書をインポートします。詳細については、「[前提条件 前のページ](#)」を参照してください。
2. Blue Prism Data Protectorをまだお持ちでない場合は、[Blue Prismポータル](#)からダウンロードして、HubまたはInteract Webサーバーに保存します。この手順が完了したら、削除できます。
3. アプリケーション設定スクリプト (update-connectionStrings.ps1) をまだお持ちでない場合は、[Blue Prismポータル](#)からダウンロードして、HubまたはInteract Webサーバーに保存します。
4. 管理者としてPowerShellを開き、update-connectionStrings.ps1スクリプトを実行します。プロンプトが表示されたら、次の情報を入力します。
 - a. **installationDirectory** – Hubがインストールされている場所のディレクトリパスを入力し、Enterキーを押します。たとえば、デフォルトのインストール場所が使用されている場合、パスはC:\Program Files (x86)\Blue Prismです。
 - b. **sqlSource** – SSL証明書の作成時に使用したSQL Server名を入力し、Enterキーを押します。
 - c. **dataProtectorPath** – Blue Prism Data Protectorへのフルパスを入力し、Enterキーを押します。たとえば、C:ドライブに直接保存する場合は、C:\BluePrismDataProtector.Console.exeと入力します。
 - d. **interactInstallationDirectory** – Interactがインストールされている場所のディレクトリパスを入力し、Enterキーを押します。たとえば、デフォルトのインストール場所が使用されている場合、パスはC:\Program Files (x86)\Blue Prismです。Interactがまだインストールされていない場合は、情報を入力せずにEnterキーを押します。

スクリプトが実行され、アプリケーション設定の接続文字列がSQL Serverの新しい値で更新されます。

5. HubとInteractがインストールされているすべてのマシンで、このプロセスを繰り返します。

アプリケーション設定を手動で更新するには:

1. SQL Serverに証明書をインポートします。詳細については、「[前提条件 前のページ](#)」を参照してください。
2. Blue Prism Data Protectorをまだお持ちでない場合は、[Blue Prismポータル](#)からダウンロードします。
3. BluePrismDataProtector.Console.exeがあるフォルダーで、管理者としてPowerShellを開きます。このツールを使用してappsettings.jsonファイルの接続文字列を更新します。このツールの使用に関する詳細については、「[Blue Prism Data Protectorツール ページ16](#)」を参照してください。
4. HubとInteract Webサーバーで次のファイルに移動し、以下のコードスニペットで提示されるセクションを見つけます。

 以下に示すファイルパスはデフォルトのインストール場所です。アプリケーションを別のフォルダーにインストールした場合は、そのフォルダーに移動してください。

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Audit Service\appsettings.json

```
"ConnectionStrings": {  
  "AuditServerConnection": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Audit Service Listener\appsettings.json

```
"ConnectionStrings": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Authentication Server\appsettings.json

```
"ConnectionStrings": {  
  "IdentityServerConnection": <Replace the string here>  
"Storage": {  
  "Type": "Database",  
  "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Email Service\appsettings.json

```
"Database": {  
  "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\File Service\appsettings.json

```
"Storage": {  
  "Type": "Database",  
  "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Hub\appsettings.json

```
"Data": {  
  "Connect": {  
    "ConnectionName": "Connect",  
    "ConnectionString": <Replace the string here>  
  
    "BluePrismDecision": {  
      "ConnectionName": "BluePrismDecision",  
      "ConnectionString": <Replace the string here>  
    }  
  }  
  
  "DistributedCache": {  
    "Type": "Database",  
    "DefaultExpirationMinutes": 0,  
    "SqlServer": {  
      "ConnectionString": <Replace the string here>  
    }  
  }  
  
  "Storage": {  
    "Type": "Database",  
    "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\IADA\appsettings.json

```
"Database": {  
  "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Interact\appsettings.json

```
"InteractDatabases": {  
  "InteractConnectionString": <Replace the string here>  
  
"DistributedCache": {  
  "Type": "Database",  
  "DefaultExpirationMinutes": 0,  
  "SqlServer": {  
    "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Interact Remote API\appsettings.json

```
"InteractRemoteDatabases": {  
  "InteractConnectionString": <Replace the string here>  
  
"InteractRemoteStorage": {  
  "Type": "Database",  
  "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\License Manager\appsettings.json

```
"Database": {  
  "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Notification Center\appsettings.json

```
"Database": {  
  "ConnectionString": <Replace the string here>
```

C:\Program Files (x86)\Blue Prism\Submit Form Manager\appsettings.json

```
"SubmitFormManagerDatabases": {  
  "InteractConnectionString": <Replace the string here>
```


5. これらのファイルそれぞれについて、次の操作を行います。

- a. Blue Prism Data Protectorツールを使用して接続文字列を復号し、一時テキストファイルにコピーします。例：

```
"InteractDatabases": {
  "InteractConnectionString":
  "CfDJ8MILtsx8cQB0rqrAat15A1aLmLP1GodofWtNhvaHwh0ryabXaXW2i-KTfsq2XTYuAzct_
  ZXIFS3ILFv4Zu5ozmtvHv9aOLCxZjQJEUm7Ytwx8dK1Zqapywv2s5TCoi4X_9MGselkrRmbknBuQ_
  zWE93ozrN1BUVCQNHVedkyjTTPmPnxyeIgJJdoZRbkkOupnSrJwTt95SCmvo2SLLhZZFR5e2s24smn72PKNGrg
  a8fksbIDpalDFwRc-i6_kkEinp5qA-FBFfIbVZzBD5ZN1dyuaC2jM7V4dxKt5tea1NP-_
  vauczgCLBp88WdmNEe0Ew"
```

次のようになります。

```
"InteractDatabases": {
  "InteractConnectionString": "Data Source=existed-name-without-certificate;
  Initial Catalog=Interact; User Id=sa; Pass=Pass***; Max Pool Size=500; Encrypt=False;
  MultiSubnetFailover=True"
```

 上記ステップ4の例は、設定の場所を説明するために、appsettings.jsonファイルから抽出したものを示しています。復号と暗号化はこれらのコード例にも示されているとおり、設定ではなく、接続文字列設定でのみ実行されます。

接続文字列の**Data Source**のみを更新する必要があります。接続文字列設定の他のパラメーターは変更しないでください。アップグレードスクリプトは、**Encrypt**パラメーターの更新など、実行時に必要な変更を行います。


- b. コピーした接続文字列で、**Data Source**パラメーターの値を証明書の名前に置き換えます。例：

```
"InteractDatabases": {
  "InteractConnectionString": "Data Source=name-with-certificate; Initial
  Catalog=Interact; User Id=sa; Password=Pass***; Max Pool Size=500; Encrypt=False;
  MultiSubnetFailover=True"
```

 証明書名はSQL Server構成マネージャーで確認できます。

1. SQL Server構成マネージャーで **[SQL Serverネットワークの構成]**を展開し、**[SqlServerInstanceName>のプロトコル]**を右クリックして **[プロパティ]**をクリックします。
2. **[SqlServerInstanceName>のプロトコルのプロパティ]**ダイアログで、**[証明書]**タブを選択します。証明書名は **[発行先]**フィールドに表示されます。短い名前の後に共通名(通常はFQDN)が続く形式で表示されます。いずれの名前もデータソースとして使用できますが、両方の名前がある場合は、共通名(FQDN)を使用することをお勧めします。
3. オプションとして、**[表示]**をクリックして **[サブジェクト代替名]**を選択すると、さらに詳細を確認できます。名前はフィールドの下のテキスト領域に表示されます。



- c. Blue Prism Data Protectorツールを使用して新しい接続文字列を暗号化し、この新しい値でappsettings.jsonファイルの文字列を上書きします。

 接続文字列の復号と暗号化の詳細については、「[Blue Prism Data Protectorツール ページ16](#)」を参照してください。

6. IISマネージャーを開き、適切なアプリケーションプールを再起動して、新しい接続文字列を使用していることを確認します。
7. HubとInteractがインストールされているすべてのマシンで、このプロセスを繰り返します。

アップグレード手順

1. Blue Prism HubとBlue Prism Interact 4.7には.NET Core 6.0と.NET Framework 4.8が必要です。これらのバージョンがない場合は、HubまたはInteract Webサーバーを更新する必要があります。

ステップ	詳細
1	<p>次のコンポーネントをダウンロードし、C:\tempなどの一時的な場所に保管します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ASP.NET Core Runtime 6.0.9、または6.0.10(Windowsホスティングバンドル) https://dotnet.microsoft.com/download/dotnet/6.0 – 必要なバージョンを選択します。 ASP.NET Core Runtimeで、ホスティングバンドルを選択します。 • .NET Desktop Runtime 6.0.9、または6.0.10 https://dotnet.microsoft.com/download/dotnet/6.0 – 必要なバージョンを選択します。 .NET Desktop Runtimeで、適切なダウンロードを選択します。 • .NET Framework 4.8 https://support.microsoft.com/en-us/topic/microsoft-net-framework-4-8-offline-installer-for-windows-9d23f658-3b97-68ab-d013-aa3c3e7495e0 <div style="border: 1px solid #0070c0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> これはWindows Server 2022にデフォルトでインストールされます。Windows Server 2016 DatacenterまたはWindows Server 2019を使用している場合、.NET Frameworkのみをインストールする必要があります。</p> </div>
2	<p>.NET依存関係をインストールするには、PowerShellコマンドプロンプトを使用して次の各コマンドを実行し、各コマンドが完了するまで待機してから、次のコマンドを実行します。</p> <p>Windows Server 2016およびWindows Server 2019の場合：</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <pre>start-process "C:\temp\dotnet-hosting-6.0.0-win.exe" /q -wait start-process "C:\temp\windowsdesktop-runtime-6.0.0-win-x64.exe" /q -wait start-process "C:\temp\ndp48-x86-x64-allos-enu.exe" /q -wait</pre> </div> <p>Windows Server 2022(デフォルトで.NET Frameworkがインストール済み) の場合：</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <pre>start-process "C:\temp\dotnet-hosting-6.0.0-win.exe" /q -wait start-process "C:\temp\windowsdesktop-runtime-6.0.0-win-x64.exe" /q -wait</pre> </div> <div style="border: 1px solid #0070c0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> ファイル名とファイルパスが、手順1で保存したファイルと一致していることを確認します。</p> </div>
3	<p>Blue Prism Hubをインストールする前にサーバーを再起動し、コンポーネントが完全にインストールされ、登録されていることを確認します。</p>


 このインストール手順を視聴するには、[.NETのインストールビデオ](#)を参照してください。

- バージョン4.6から4.7用のBlue Prism InteractおよびHubアップグレーダーをBlue Prismポータルからダウンロードします。
- HubとInteract 4.6がインストールされているマシンのインストーラーを解凍します。これには、次の2つのファイルが含まれています。

- Blue Prism Interact and Hub Upgrader.exe – アップグレーダー実行可能ファイル。
- BluePrismHubAndInteractUpdate4.7.bin – 4.7へのアップグレードに必要なバイナリファイル。

これらのファイルは同じディレクトリに保存する必要があります。

- 実行可能なアップグレーダーをダブルクリックしてアップグレーダーウィザードを起動し、[HubとInteractのアップグレーダーへようこそ]画面で **次へ**] をクリックします。

 アップグレーダーは手順1の前提条件ソフトウェアがインストールされていることを確認します。インストールされていない場合は前提条件画面が表示され、インストーラーを閉じて手順1を実行する必要があります。

- 使用許諾契約書 (EULA)]画面で使用許諾契約書 (EULA) を読み、条件に同意する場合は、チェックボックスを選択して **次へ**] をクリックします。
- [4.7へのアップグレード準備完了]画面で、 **次へ**] をクリックしてHubとInteractを4.7にアップグレードします。
- [Blue Prism HubとBlue Prism Interactのアップグレードを完了]画面で、以下を行います。
 - アップグレードが正常に完了したら、 **終了**] をクリックします。
 - インストールが失敗した場合は、 **ログを表示**] オプションに、発生したエラーの詳細が表示されます。詳細は、「[アップグレードのトラブルシューティング](#)」を参照してください。
- HubとInteractがインストールされているすべてのマシンで、このプロセスを繰り返します。

 プラグインは、アップグレードプロセスの一環として、自動的に最新バージョンに更新されます。

Blue Prism Data Protectorツール

Blue Prism Data Protectorツールを使用して、appsettings.jsonファイルに格納されている接続文字列を復号および暗号化します。セキュリティ上の理由から、接続文字列は暗号化されますが、Blue Prism Data Protectorツールでは文字列を復号できるため、必要に応じて変更して再度暗号化できます。

BluePrismDataProtector.Consoleツールはコマンドラインツールで、管理者として実行しているWindows PowerShellで使用する必要があります。

接続文字列を復号する

ツールを使用して接続文字列を復号するには:

1. [Blue Prismポータル](#)からBluePrismDataProtector.Console.exeファイルをダウンロードし、デバイスの任意の場所に保存します。
2. BluePrismDataProtector.Console.exeがあるフォルダーで、管理者としてPowerShellを開きます。
管理者: Windows PowerShell] ウィンドウが表示されます。



コマンドラインに「.\BluePrismDataProtector.Console.exe」と入力してEnterを押すと、使用可能なコマンドのリストが表示されます。

3. Windowsエクスプローラーから、復号する文字列を含むappsettings.jsonファイルを開き、コピーします。
例:

```
"HubServiceBus": {  
  "Connection": "CFDj8LadX9spUNhMhvbXtcsxZYTHFA3m8Ty1-Z_EZ0Zn16mYfv_23Q2D2waPDTBxaz4-viN02Akk-S5C73dNj0dGHifGCxSIftwExJ304FuDXHpbNo0be-xyQt1D1-j7rosuYw",  
  "Topic": "thttopic",  
  "Subscription": "Hub",  
}
```

4. PowerShellで、次のように入力します。

```
.\BluePrismDataProtector.Console.exe unprotect -v "[string]" -p "[path]"
```

ここでは、

[string] = ファイルからコピーされた文字列

[path] = DataProtectionKeysへのパス。通常は、C:\Program Files (x86)\Blue Prism\DataProtectionKeys

例:

```
.\BluePrismDataProtector.Console.exe unprotect -v "CFDj8LadX9spUNhMhvbXtcsxZYTHFA3m8Ty1-Z_EZ0Zn16mYfv_23Q2D2waPDTBxaz4-viN02Akk-S5C73dNj0dGHifGCxSIftwExJ304FuDXHpbNo0be-xyQt1D1-j7rosuYw" -p "C:\Program Files (x86)\Blue Prism\DataProtectionKeys"
```

5. Enterキーを押します。
文字列が復号され、暗号化されていない値がPowerShellに表示されます。

接続文字列を暗号化する

ツールを使用して接続文字列を暗号化するには:

1. BluePrismDataProtector.Console.exeがあるフォルダーで、管理者としてPowerShellを開きます。
管理者: Windows PowerShell] ウィンドウが表示されます。



コマンドラインに「.\BluePrismDataProtector.Console.exe」と入力してEnterを押すと、使用可能なコマンドのリストが表示されます。

2. PowerShellで、次のように入力します。

```
.\BluePrismDataProtector.Console.exe protect -v "[string]" -p "[path]"
```

ここでは、

[string] = 暗号化する文字列

[path] = DataProtectionKeysへのパス。通常は、C:\Program Files (x86)\Blue Prism\DataProtectionKeys

例：

```
.\BluePrismDataProtector.Console.exe protect -v "Str0ngP@$$W0rD" -p "C:\Program Files (x86)\Blue Prism\DataProtectionKeys"
```


3. Enterキーを押します。

文字列が暗号化され、PowerShellに値が表示されます。例：

```
CfDJ8LadX9spUNhMhvbXtcsxZYTHFA3m8Tyl-Z_EZ0Znl6mYfv_23Q2D2waPDTBXaz4-viNO2Akk-S5C73dNjOdGHifGCxSIftwExJ3O4FuDXHpbNo0be-xyQt1D1-j7rosuYw
```

4. 暗号化された文字列をappsettings.jsonファイルの適切な場所にコピーし、ファイルを保存します。

5. IISマネージャーを開き、適切なアプリケーションプールを再起動して、新しい接続文字列を使用していることを確認します。

 PowerShell自体のコマンドに関連付けられている文字列に文字がある場合、意図したとおりにPowerShellが文字列を受け入れるように、文字列にエスケープ文字を追加する必要があります。以下のような例：

- 「`」と「\$」は、文字の前に「`」(バックティック)が必要です。たとえば「Str0ng`P@\$W0rD」は、コマンドラインで「Str0ng`P@`\$W0rD」と入力する必要があります。
- 「"」は、文字の前に「\"」が必要です。たとえば、「P@\$"W0rD」は、コマンドラインで「P@`\$\"W0rD」と入力する必要があります。

これらの追加エスケープ文字により、文字列の整合性が維持されます。結果の暗号化値が再び復号された場合、値はコマンドラインバージョンではなく元の文字列と一致します。

旧リリース

Hub 4.6 – 2022年6月



このリリースノートは、Blue Prism Hub 4.6のリリース用です。

機能強化

このバージョンのHubには、次の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明	参考資料
Audit	<p>次のカテゴリとイベントの機能が「」「Auditページ」で強化されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネスプロセスカテゴリ： <ul style="list-style-type: none"> 削除されたビジネスプロセス – この新しいイベントでは、ビジネスプロセスが削除されると必要な監査情報を取得できます。 再アクティブ化済みビジネスプロセス – このイベントはこれまでアクティブ化済みビジネスプロセスと呼ばれていました。 プロセス定義 (ALMプラグインがインストールされている場合のみ)： <ul style="list-style-type: none"> 削除されたプロセス定義 – この新しいイベントでは、プロセス定義が削除されると必要な監査情報を取得できます。 所有者による編集済みプロセス定義 – この新しいイベントではプロセス定義所有者がプロセスを編集すると、必要な監査情報を取得できません。 Interact - フォームカテゴリ (Interactプラグインがインストールされている場合のみ適用) – このカテゴリは、これまでInteractと呼ばれていました。 <ul style="list-style-type: none"> フォームを削除 – この既存のイベントは、フォームバージョン0.0および0.1の削除を含むように更新されました。これらのバージョンの削除は、これまで監査されていませんでした。 編集済みフォーム – この新しいイベントでは、フォームが編集されると必要な監査情報を取得できます。 メジャーフォームを増加 – このイベントはこれまで、フォームのメジャーバージョンを増加と呼ばれていました。 	<p>HUB-2902</p> <p>HUB-1682</p> <p>HUB-1661</p> <p>INTER-175</p> <p>HUB-3053</p> <p>HUB-1676</p> <p>HUB-1025</p> <p>HUB-1298</p> <p>HUB-1018</p>

エリア	変更の説明	参考資料
	<ul style="list-style-type: none"> Interact送信カテゴリ(Interactがインストールされている場合のみ適用) 承認済みフォーム – このイベントでは送信ID(GUID) パラメーター、役割に昇格(役割名) の追加の情報が取得できるようになりました。 却下されたフォーム - このイベントでは送信ID(GUID) パラメーター、役割に昇格(役割名) の追加の情報が取得できるようになりました。 送信されたフォーム – このイベントでは送信ID(GUID) パラメーター、役割に昇格(役割名) の追加の情報が取得できるようになりました。 送信されたフォーム(API経由) – この新しいイベントでは、Interact Remote APIからフォームが送信されると必要な監査情報が取得できます。 	
	<p>[Audit] ページの認証管理カテゴリに、次の監査イベントが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ネイティブ認証を有効化または無効化 Windows認証を有効化または無効化 作成されたActive Directoryユーザー – Active Directoryグループから追加されたユーザーを監査します。 作成されたActive Directoryユーザー – データベースに自動的に追加された役割の割り当てがないユーザーや、Hubから直接役割を割り当てられ追加されたユーザーを監査します。 Active Directoryユーザーを更新 Active Directoryの同期が開始しました Active Directoryの同期が完了しました Active Directoryの同期が失敗しました Active Directoryドメインが追加されました Active Directoryドメインが削除されました Active Directoryドメインが更新されました <p>以下にある既存の監査イベントの名前が、次のように変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ライブになった認証 – LDAP構成がライブになりました 編集された認証 - LDAP構成が編集されました 削除された認証 - LDAP構成が削除されました 認証が同期されました – LDAP構成が同期されました 廃止された認証 – LDAP構成が廃止されました 追加された認証 – LDAP構成が追加されました <p>これらのイベントの監査ログを表示する際に、作成、変更、または削除された役割に関連付けられたActive Directoryセキュリティグループが表示されるようになります。セキュリティグループエントリには、SID(セキュリティ識別子) とDN(識別名) が表示されます。</p>	<p>BP-5649 BP-5642 BP-5498 BP-5111 BP-5409 BP-5411 BP-5419 BP-5958 BP-5459</p>

エリア	変更の説明	参考資料
認証設定	<p>Hubの 【 認証設定 】 ページが更新され、利用できるすべての認証方法 (ネイティブ認証、Active Directory認証、LDAP認証) が表示されるようになりました。これまでこのページではLDAP認証のみが構成できました。</p> <p>Hub管理者はこれらの認証方法を、次の方法で有効化または無効化できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネイティブ認証は新しい環境またはHubのアップグレード時にデフォルトで有効になっていますが、LDAPまたはActive Directory認証を使用してサインインできるHub管理者がシステム内に少なくとも1人いる場合は、無効にできません。 • LDAP認証を使用してサインインできるHub管理者がシステム内に少なくとも1人いる場合は、ネイティブ認証とActive Directory認証の両方を無効にできません。 • システムにLDAPユーザーが存在しない場合は、ネイティブ認証またはActive Directory認証のいずれかを有効にし、有効な認証タイプを使用するように構成されたHub管理者が、システム内に少なくとも1人必要です。 • LDAP認証を有効にするには、LDAP接続を少なくとも1つ追加する必要があります。 <div data-bbox="339 1003 1289 1126" style="border: 1px solid #00a0e3; padding: 5px;"> <p> Hub管理者は現在有効な認証タイプを使用できる必要があります。現在有効な認証タイプを使用してサインインできる管理者が構成されていない場合、警告が表示されます。</p> </div>	BP-3220 BP-4245 BP-4250 BP-5959
	<p>HubのActive Directoryユーザーの認証は、今後は次のように行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Blue PrismとAuthentication Serverの両方で構成されたActive Directoryユーザーは、インタラクティブクライアントの 【ログイン】 ページにある 【 Authentication Serverを使用してサインイン 】 ボタンを使用してBlue Prismインタラクティブクライアントにログインできるようになりました。Authentication Serverの 【ログイン】 ページに移動し、認証情報を再入力することなく 【 Active Directoryを使用してログイン 】 ボタンを使用してログインできます。 • Active Directory認証がHubで有効になっている場合、Authentication Serverのみで構成されたActive Directoryユーザーが新しい 【 Active Directoryを使用してログイン 】 ボタンを使用してHubに直接ログインできます。 • Active Directoryセキュリティグループのメンバーではない、またはHubの役割が直接割り当てられていないActive DirectoryユーザーはHubにログインできますが、空白の 【 ようこそ 】 画面が表示されます。これはBlue Prismインタラクティブクライアントにのみアクセスできるユーザーが、Hubにアクセスせずに認証メカニズムとしてAuthentication Serverを使用できるようにするためのものです。 <div data-bbox="339 1854 1289 1939" style="border: 1px solid #00a0e3; padding: 5px;"> <p> LDAPユーザーは、これまでどおり認証情報を再入力するよう求められます。</p> </div>	BP-5033 BP-4249 BP-6823

エリア	変更の説明	参考資料
Active Directoryドメイン	<p>HubのActive Directoryユーザーの役割管理は、認証設定]ページで次のオプションの少なくとも1つを有効にすることで実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Active Directoryセキュリティグループメンバーシップによる認証を許可 – 1つ以上のActive DirectoryセキュリティグループをHubの役割に追加できます。これらのセキュリティグループのメンバーであるユーザーは、Hubの役割に自動的に追加されます。 • Active Directoryユーザーの役割への直接追加を許可 – 1人以上のActive DirectoryユーザーをHubの役割に直接割り当てることができます。 	BP-5339 BP-4248 BP-5050 BP-5739
	<p>Hub管理者はAuthentication Serverデータベースにセキュアに保存されているActive Directoryドメインと関連する認証情報を表示、追加、編集、削除できるようになりました。新しい Active Directoryドメイン]ページの 認証設定]ページで ドメインを表示]をクリックします。</p> <p>認証情報はActive Directoryドメインを作成または編集するとデータベースに保存されます。ユーザー名とパスワードは保存前に暗号化されます。</p> <p>詳細については、「Active Directoryドメイン」を参照してください。</p>	BP-5408 BP-5409 BP-5411 BP-5419 BP-5410 BP-5062
	<p>HubでユーザーまたはセキュリティグループのActive Directoryを検索する場合、Authentication Serverデータベースにのドメインに対して保存されている認証情報が使用されます。保存されている認証情報が見つからない場合、追加の認証が必要なクエリが、ISS内でAuthentication Serverアプリケーションプールを実行しているWindowsアカウントのコンテキストを使用して実行されます。</p>	BP-5424 BP-6408 BP-6409 BP-6410
	<p>Authentication ServerデータベースのActive Directoryドメインに対して保存されている認証情報は、これらのドメインからのActive Directoryユーザーの認証に使用され、適切なドメインコントローラーからの読み取りを可能にします。</p> <p>保存された認証情報は、次のシナリオで使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Hub – IISのAuthentication Serverアプリケーションプールを実行しているWindowsアカウントのフォレストによって信頼されているフォレストのActive Directoryユーザーが、Authentication Serverを経由してHubにログインできるようになりました。 • Interact – IISのAuthentication Serverアプリケーションプールを実行しているWindowsアカウントのフォレストによって信頼されているフォレストのActive Directoryユーザーであり、Hubの役割が割り当てられているActive Directoryセキュリティグループのメンバーが、Interactアプリケーションとプラグインにアクセスできるようになりました。 • Hub Control Room – IISのAuthentication Serverアプリケーションプールを実行しているWindowsアカウントのフォレストによって信頼されているフォレストのActive Directoryユーザーであり、HubとBlue Prismの役割が割り当てられているActive Directoryセキュリティグループのメンバーが、ブラウザーベースのControl Roomにアクセスできるようになりました。 	



Blue Prismで追加の構成が必要です。Blue Prism 7.1リリースノート (BP-6577) を参照してください。

エリア	変更の説明	参考資料
環境 マネージャー	設定]の [環境 マネージャー] ページにあるデータベーススタイルに、新しい [編集] ボタンが追加されました。このボタンで [接続を編集] ページが開きます。編集できる接続情報は、新しいAPI構成セクションに限定されます。	BP-4890
	ユーザーは [環境 マネージャー] ページでデータベース接続構成にAPI URLを追加できるようになりました。このオプションではユーザーがBlue Prism APIを経由してデータにアクセスできます。	BP-4893
高可用性	高可用性スクリプトが4.6用に更新されました。Blue Prismポータルからダウンロードできます。	HUB-3388
インストーラーとアップグレーダー	Blue Prism API画面はHubの環境画面に移動し、これらの設定はインストーラーから削除されました。	HUB-3011
	IIS機能のWindows認証をAuthentication Serverに適用するために機能が強化されました。この機能がまだインストールされていない場合、MSIによってインストールされます。	HUB-1651 HUB-1918
	Hubインストーラーまたはアップグレーダーを中国語で実行する場合、すべての画面タイトルが正しく表示されるようになりました。これまでは画面タイトルの一部が見切れていました。	LOC-720
役割と許可	HubでActive Directory認証が有効になっている場合、管理者はActive Directoryからセキュリティグループを取得することで、1つ以上のActive DirectoryセキュリティグループをHubの役割に割り当てられるようになりました。1人以上のユーザーまたはセキュリティグループを同じ役割に割り当てることができます。	BP-4248 BP-5050 BP-5739
	セキュリティグループからHubまたはInteractの役割を割り当てられているが、Hubで直接の役割が割り当てられていないActive Directoryユーザーには、HubおよびInteractの役割とそれに関連する許可が自動的に割り当てられます。	
ユーザーインターフェイス	ユーザーインターフェイスに、デザイン上の次の改良が加えられました。 <ul style="list-style-type: none"> Hubのすべてのページに、一貫したタイトルが表示されるようになりました。 グリッドのチェックボックスがアイコンに置き換えられました。 ページごとの行数の選択が、グリッドの下部に表示されるようになりました。 [テキスト] フィールドにテキストを入力すると、[テキスト] フィールドに使用可能な残りの文字数が表示されます。 	HUB-2108 HUB-2110 HUB-2107 HUB-2922
	[検索] フィールドとフィルターの次のエリアに以下の変更が加えられました。 <ul style="list-style-type: none"> [ユーザー] ページ、[登録] ページ、[DAP] > [ユーザーアクセスと役割を構成] ページにある [検索] フィールドの上に [ユーザー名] ラベルが追加されました。 [役割と許可] ページにある [検索] フィールドの上に [役割名] ラベルが追加されました。 [ユーザー] ページと [登録] ページのフィルタードロワーに [フルネーム] フィルターが追加されました。 	BP-5807

エリア	変更の説明	参考資料
ユーザー	<p>Hubの [ユーザーを追加] ページに新しい 認証タイプ フィールドが追加されました。選択可能なオプションは ネイティブ認証 と Windows認証 です。このフィールドは、Hub環境でネイティブ認証とWindows認証の両方が構成されている場合にのみ表示されます。</p> <p>HubでActive Directory認証が有効になっている場合、管理者は 認証タイプ フィールドで Windows認証 を選択してActive Directoryを検索することで、Active Directoryユーザーを追加できます。詳細については、「ユーザー」を参照してください。</p> <p>Hubユーザーの検証も以下のように更新されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> Active Directoryユーザー(UPN) のユーザー名には最大255文字まで使用することができ、次の文字がサポートされるようになりました: { , @ , }。 ネイティブユーザーのユーザー名は25文字以内とし、「@」は使用できません。 すべてのユーザータイプの名には、最大28文字まで使用できます。 <p>各Active Directoryユーザーレコードで利用可能な新しい ユーザーを同期 オプションにより、Hub管理者はユーザーの詳細をActive Directoryと同期できます。ユーザーの詳細(UPN、ユーザー名、フルネーム、メールアドレス、アクティブ・削除・無効のステータス) が更新されます。</p> <p>Hubでユーザーを廃止または回収するオプションはActive Directoryで実行されるため、Windows認証を使用しているActive Directoryユーザーには利用できません。Active Directoryとの同期が発生するとHubでActive Directoryユーザーアカウントが更新され、反映されます。</p>	<p>BP-4246 BP-5049</p> <p>BP-6202</p> <p>BP-6226</p>

修正と改良

このバージョンのHubには、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明	参考資料
Authentication Server	<p>Blue Prismインタラクティブクライアントのセキュリティ - サインオン設定画面の Authentication Server経由のユーザーログイン オプションが選択されていない場合、HubユーザーはControl Roomプラグインにアクセスできなくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> Authentication ServerとBlue Prismアプリケーションサーバー間のユーザーアカウントの自動同期では、Authentication Serverを経由したユーザー認証を有効にする必要がありますが、Authentication Serverを経由したユーザー認証が有効になっていない場合でもサービスアカウントは同期されます。 これまではBlue PrismでAuthentication Serverが有効になっていない場合、誤って同期は行われませんでした 	BP-3810
	<p>Authentication Serverを使用してHubにログインしたActive Directoryユーザーが新しいアクセストークンを必要とする場合、トークンを更新するメカニズムであるOAuth 2.0を使用して新しい有効なアクセストークンが生成され、そのアカウントに自動的に適用されます。アクセストークンの更新中に実行されたアクセス許可の変更 (デフォルトでは5分) は、新しいアクセストークンがアカウントに適用されるときに反映されるようになりました。</p> <p>アクセストークンの更新中にユーザーアカウントが廃止または削除された場合、ユーザーには更新時に新しいアクセストークンが発行されず、ユーザーはHubにアクセスできなくなります。</p>	BP-6411 BP-6412
	<p>Active Directory経由のログインプロセス中にログイン障害やパフォーマンスの問題が発生した場合、システム管理者はログインプロセス中に照会できる信頼できるActive Directoryドメインを手動で構成できます。少なくとも1つのActive Directoryドメインが手動で構成された場合、これらの設定はログインのプロセス中に構成したドメインのみを照会するときに使用されます。プログラムを実行してドメインの特定は行いません。</p> <p>手動で構成するには必要なドメインごとにActive Directoryのドメイン名、フォレスト名、Authentication Serverのappsettings.jsonファイルのセキュリティ識別子 (SID) を追加する必要があります。詳細については、「Authentication Server構成ガイド」を参照してください。</p>	BP-9497
	<p>ログイン時のパフォーマンスを高めるために、検出されたActive Directoryドメインを保存するキャッシュの動作を構成できます。Authentication Serverのappsettings.jsonファイルで更新間隔と最大キャッシュ時間を設定して実行します。詳細については、「Authentication Server構成ガイド」を参照してください。</p>	BP-9654
メール	<p>HubからGmail経由で送信されたメールに画像が正しく表示されるようになりました。これまではGmailサービス経由で送信されたメールにはロゴなどの画像が表示されませんでした。Outlook経由で送信されたメールは影響を受けませんでした。</p>	HUB-813

エリア	変更の説明	参考資料
インストーラー	重複する証明書(同じサムプリントを持つ複数の証明書)が存在する場合、Hubが正しくインストールされるようになりました。これまで、インストールは失敗していました。	HUB-2205
	パスワードに二重引用符(")記号を使用してSQLユーザーを作成できるようになりました。これまではこれがインストールに失敗する原因となっていました。	HUB-1501
LDAP	Hub管理者がHubへのログイン後に初めて [設定] > [認証設定] > [LDAP] でLDAP接続を同期すると、[ユーザーアクセスと役割を構成] ページの [テーマ] フィルターに、使用可能なテーマが正しく一覧表示されるようになりました。これにより利用可能なテーマが表示されないHub4.5での既知の問題が解決されます。	HUB-2799 (HUB-2868)
役割と許可	Blue PrismユーザーがAuthentication Serverデータベースにマップされると、Hubの許可がユーザーに付与され、Hubへの初回ログイン時にダッシュボードおよびプロファイルの設定ページにアクセスできるようになります。	BP-4810
サービスアカウント	削除したサービスアカウントと同じ名前の新しいサービスアカウントを作成できるようになりました。これまではサービスアカウントの作成に失敗し、エラーメッセージが表示されました。	HUB-1771
	ユーザーが [クリップボードにコピー] アイコンをクリックしてサービスアカウントのシークレットをダッシュボードにコピーすると、シークレットがコピーされたことを確認するメッセージが表示されるようになりました。	BP-3793

プラグインの更新

Automation Lifecycle Management(ALM)

このバージョンのALMプラグインに、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明	参考資料
プロセス定義	プロセス定義のバージョンを削除すると、最新バージョンが常に最初に削除されるようになりました。これまでは最初に作成されたバージョンが最新バージョンの前に削除され、エラーが表示されていました。	HUB-2061
	プロセス定義のメンバーは、そのプロセス定義が別のユーザーによって削除されると通知を受信し、プロセス定義の名前とそれを削除したユーザーのユーザー名が通知されるようになりました。	HUB-988
	削除したテンプレートと同じ名前の新しいテンプレートを作成できるようになりました。これまではテンプレートの作成が失敗し、エラーメッセージが表示されました。	HUB-2041
	Hubユーザーは、次の場合にテンプレートを削除できるようになりました。 <ul style="list-style-type: none"> テンプレートがプロセス定義または例外で使用されていない場合。 テンプレートが別のユーザーによってロックされていない場合。 	HUB-1569
	Capture JSONファイルがプロセス定義にインポートされると、Captureで作成された選択肢の代替オプションとして各決定ポイントに [その他] の選択肢が自動的に選択リストに追加されます。 [その他] 選択肢はデフォルトのTBCルートでインポートされます。 [その他] 選択肢はステップにルーティングするか、例外として機能するかのオプションを使用して [定義を編集] ページで編集できます。 [その他] 選択肢は削除できません。決定ポイントにすでに15個の選択肢が含まれている場合は追加されません。	HUB-1593
例外	例外のバージョンを削除すると、常に最新バージョンが最初に削除されるようになりました。これまでは最初に作成されたバージョンが最新バージョンの前に削除され、エラーが表示されていました。	HUB-2061
	Hubユーザーは、次の場合に例外を削除できるようになりました。 <ul style="list-style-type: none"> 例外がプロセス定義、テンプレート、または別の例外で使用されていない場合。 例外が別のユーザーによってロックされていない場合。 	HUB-1568
ビジネスプロセス	ビジネスプロセスのメンバーは、プロセスが別のユーザーによって削除されると通知を受信し、削除されたビジネスプロセスの名前と削除したユーザーのユーザー名が通知されるようになりました。	HUB-989
	ビジネスプロセス名列に、アルファベット順にデータが表示されるようになりました。	HUB-2030

エリア	変更の説明	参考資料
雑則	プロセス定義、ビジネスプロセス、例外、テンプレートが削除されると、トースト通知が表示されるようになりました。	HUB-1570
	次を編集すると、ライセンス検証が削除されます： <ul style="list-style-type: none">• ALM役割が割り当てられているすべてのユーザー(またはLDAPユーザー)。• Hub管理者権限を持つすべてのユーザー。	HUB-3055
Wireframer	大文字と小文字の区別なく、Wireframerでアクションを作成できるようになりました。ユーザーが同じ名前で大文字と小文字が異なる2つのアクションを作成しようとする、最初のアクションのみが作成され、2番目のアクションの名前が一意ではないことを示す通知が表示されます。これまではこの場合、2つのアクションが作成されました。	HUB-3694

Control Room

エリア	変更の説明	参考資料
アプリケーション	<p>「スケジュールとタスク」ページが2つの新しいページに置き換えられました。</p> <ul style="list-style-type: none"> スケジュールアクティビティ – ユーザーは各環境のステータスを監視し、データにフィルターを適用し、ユーザー定義ビューを作成できます。 スケジュールマネージャー – ユーザーはスケジュールを管理、作成、変更し、ユーザー定義ビューを使用してアクティビティを管理できます。 <p>詳細については、「」「スケジュールアクティビティ」と「」「スケジュールマネージャー」を参照してください。</p> <p>「スケジュールアクティビティ」ページと「スケジュールマネージャー」ページには、Blue Prism環境内でスケジューラーの許可が有効になっているユーザーのみがアクセスできます。適切な許可のないユーザーは通知を受信し、Blue Prismシステム管理者に連絡するよう求められます。</p>	HUB-2749 HUB-2750 HUB-1728
	<p>ユーザーの役割と許可の詳細がブラウザーに保存され、Control Roomで許可の確認がより効率的に実行できるようになりました。セキュリティを強化し、許可の変更が直ちに適用されるように、データは頻繁に更新されません。</p>	HUB-1796 BP-5404
	<p>Control Roomのすべてのページにパンくずリストが追加され、機能間を簡単に移動できるようになりました。</p>	HUB-1395
	<p>Control Roomのすべてのテーブルに新しい「更新」オプションが追加され、ユーザーがテーブルデータの更新速度をより詳細に管理できるようになりました。各ページに次のオプションが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動更新 – テーブルの内容が自動的に更新される頻度を定義します。デフォルトでは無効になっていますが、毎分、5分、10分、または30分間隔に設定できます。 今すぐ更新 – テーブルの内容を手動で更新します。自動更新が有効になっている場合、このオプションを使用するとタイマーがリセットされます。 最終更新日時 – テーブルが最後に更新された日時を表示します。 	HUB-1784 HUB-3253 HUB-3252 HUB-1793
	<p>Control Roomに環境の選択が追加され、ユーザーはControl Roomのどのページからでも環境やAPI接続を変更できるようになりました。環境はHubの環境マネージャーで、有効なAPI URLを使用して事前に構成する必要があります。</p>	BP-4894
スケジュールアクティビティ	<p>「スケジュールアクティビティ」ページをスケジュール名とサーバー名でフィルタリングできるようになりました。検索は完全一致、または「starts with」で実行できます。</p>	HUB-1701 HUB-1360
	<p>スケジュールアクティビティテーブルの列を昇順または降順に並べ替えできるようになりました。デフォルトでは最新のアイテムが表示されます。</p>	HUB-3162

エリア	変更の説明	参考資料
スケジュール マネージャー	<p>次のような改善がスケジュールカードに加えられました:</p> <ul style="list-style-type: none"> カードのサイズが縮小され、スケジュールの詳細をよりコンパクトに表示できるようになりました。 繰り返しタイプや有効期限など、スケジュールの追加の詳細が新しい [スケジュールの詳細を表示] ペインに移動しました。スケジュールカードには、スケジュール名、タスク数、廃止ステータスのみが含まれるようになりました。 スケジュール名がスケジュールカードに収まらない場合は省略され、省略記号 (...) で表示されるようになりました。 	HUB-2751
	<p>ユーザーは [スケジュールマネージャー] ページからスケジュールの詳細を表示および編集できるようになりました。関連するスケジュールカードの省略記号 [...] ボタンをクリックし、詳細を表示] または 編集] を選択して実行します。ユーザーはペイン上部の 編集] アイコンを選択して 詳細] セクションから ビューを編集] にアクセスすることもできます。</p>	HUB-1530 HUB-1531 HUB-1375 HUB-1762
	<p>関連するスケジュールの省略記号 (...) ボタンをクリックし、削除] を選択してスケジュールを削除できるようになりました。このオプションは、[スケジュールを削除] 許可を持つユーザーにのみ表示されます。</p>	HUB-1723
	<p>ユーザーは関連するスケジュールカードの省略記号 (...) ボタンをクリックし、タスクとセッションを表示] を選択してスケジュールタスクを表示および編集できるようになりました。その後、タスクとセッション] ペインからタスクを編集できます。編集] アイコンは、[スケジュールを編集] 許可を持つユーザーにのみ表示されます。</p>	HUB-1392 HUB-2158 BP-6390
	<p>ユーザーは関連するスケジュールカードの省略記号 (...) ボタンをクリックし、タスクとセッションを表示] を選択して、スケジュールされたセッションを追加および編集できるようになりました。その後、タスクの省略記号 ボタンを選択し、セッションを追加] をクリックしてスケジュールされたセッションを追加し、編集] アイコンを選択して編集できます。編集] アイコンは、[スケジュールを編集] 許可を持つユーザーにのみ表示されます。</p>	HUB-1731 HUB-2125 HUB-2127
	<p>ユーザーは タスクとセッション] ペインからスケジュールされたセッションを編集するときに、起動パラメーターを構成できるようになりました。より使いやすくするため、起動パラメーターには関連するパラメータータイプも含まれます。</p>	HUB-1408 HUB-2464
	<p>ユーザーは タスクとセッション] ペインからスケジュールのタスクとセッションを削除できるようになりました。これには関連するスケジュールカードの省略記号 (...) ボタンをクリックし、タスクとセッションを表示] を選択してアクセスします。削除] アイコンは [スケジュールを削除] 許可を持つユーザーにのみ表示されます。</p>	HUB-1732 HUB-1733
	<p>関連するスケジュールの省略記号 (...) ボタンをクリックし 複製] を選択することで、スケジュールの複製を作成できるようになりました。このオプションは [スケジュールを作成] と [スケジュールを編集] 許可を持つユーザーにのみ表示されます。スケジュールを複製する場合、ユーザーは新しいスケジュールの詳細を構成し、関連する許可を持っている場合は必要に応じて既存のスケジュールを廃止することもできます。</p>	HUB-2307 HUB-2308 HUB-2969

エリア	変更の説明	参考資料
	実行中のスケジュールはスケジュールマネージャーで関連するスケジュールの省略記号 (...) ボタンをクリックし、 停止]を選択することで停止できるようになりました。このオプションは [スケジュールを編集] 許可を持つユーザーにのみ表示されます。	HUB-2880
	ユーザーはスケジュールの繰り返し構成を編集し、各繰り返しタイプに必要なパラメーターを定義できるようになりました。この機能には1回、1分ごと、1時間ごと、毎日、毎週、毎月、毎年実行されるスケジュールが含まれます。	HUB-1702
	ユーザーはスケジュールカードを使用してスケジュールを廃止および回収できるようになりました。これは関連するスケジュールの省略記号 (...) ボタンをクリックして 廃止]または 回収]を選択することで実行できます。これらのオプションは [スケジュールを編集] 、 [スケジュールを廃止] 、 [スケジュールを作成] の許可を持つユーザーにのみ表示されます。	HUB-1822
	すでに廃止されたスケジュールを廃止しようとする则表示されるエラーメッセージが、よりわかりやすくなりました。これまで、メッセージにはエラーコードのみが表示されていました。	HUB-1452
	開始時刻より前に有効期限を持つスケジュールを構成しようとする、検証エラーメッセージが重複して表示される問題が解決されました。今後エラーメッセージは1つのみ表示されます。	HUB-2375
セッション	セッションテーブルが更新され、警告ステータスのセッションに警告が表示されるようになりました。ステータス計算クエリがテーブルに追加され、警告ステータスのセッションがユーザーに正しく強調表示されます。	BP-2665
	セッションテーブルのサイズを変更し、使いやすさとテーブルデータの視覚的表示を改善しました。	HUB-2761
	計算ステージがセッションログに正常に表示されるようになりました。これまで計算ステージは、ステージタイプの列にすべて大文字で表示されていました。	HUB-1453
	ユーザーが無効なセッションログパラメーターに移動する際のエラー処理が改善されました。ユーザーは [セッションログ] ページにリダイレクトされ、パラメーターが存在しないことがトーストメッセージで通知されます。	HUB-1455
Digital Workerの健全性	ユーザーは [Digital Workerの健全性] ページで廃止されたステータスに基づいてリソースをフィルタリングできるようになりました。デフォルトの構成では、回収されたリソースのみが表示されます。詳細については、「 「Digital Workerの健全性」 」を参照してください。	HUB-1754
ワークキュー	ワークキューテーブルのサイズを変更し、使いやすさとテーブルデータの視覚的表示を改善しました。	HUB-2759 HUB-2760
ダッシュボード	月次使用率ダイアリーで使用する計算を改善し、アクティブな時間と非アクティブな時間の割合がより正確に変換できるようになりました。	HUB-1721
	使用率ヒートマップが更新され、より広範なカラーパレットが導入されました。カラースケールは0~60までの値を示し、ユーザーは使用率データを一目でより簡単に確認できます。	HUB-2967

Decision

Decisionのリリースノートは、次の2つに分かれています。

- **Decision Model Service** – Model Serviceの変更を説明します。これはコンテナまたはmsi(本リリース以降)として提供されます。Model ServiceはDecisionプラグインを実行するための前提条件です。
- **Decisionプラグイン** – Decisionモデルの生成に使用されるユーザーインターフェイスです。これはBlue Prism Hubのプラグインとして利用できます。

Decision Model Service

エリア	変更の説明	参考資料
コンテナ	Decisionコンテナが更新され、バージョンラベル(現在は1.1.1)を返すようになりました。これはDecisionプラグインに表示されます。	DCN-243
インストーラー	Decision Model ServiceはWindowsサービスとして、また4.5で導入されたDockerコンテナとして利用できるようになりました。Windowsサービスは、 Blue Prismポータル で利用可能なDecision Model Service MSIを使用してインストールできます。 詳細については、「 Decisionインストールガイド 」を参照してください。	DCN-559

Decisionプラグイン

エリア	変更の説明	参考資料
定義、トレーニング、調整	モデルの精度が [トレーニング] ページの 教育 タブに表示されるようになりました。新しいサンプルが作成され、モデルがトレーニングされるたびにこの値は変化します。	DCN-660
	調整 ページの 帰ねる タブで使用されているサンプルが、折りたたみ済みセクションに表示されるようになりました。予測で使用されるサンプルまたはルールを表示するには、ユーザーは 使用された参照を表示 リンクをクリックしてセクションを展開します。	DCN-587
	考えられるすべての組み合わせに対してサンプルが作成された場合、これ以上のサンプルが不要であることをユーザーに知らせるメッセージが表示されます。	DCN-274
	調整 ページの 帰ねる タブにあった 重み 列は冗長だったため表示されなくなりました。	DCN-711
	数値コンボボックスと スライダ フィールドが 数値 フィールドに変更されました。ユーザーはフィールドに直接数字を入力できるようになりました。さらに、検証メッセージが更新されました。 更新は次に影響します。 <ul style="list-style-type: none"> • [トレーニング] ページの ルール タブ、初期化 タブ、教育 タブ。 • 調整 ページの 帰ねる タブ。 これにより、これまでの既知の問題が解決されます。	DCN-485 DCN-616

エリア	変更の説明	参考資料
エクスポートとインポート	Decisionでモデルのインポートとエクスポートがサポートされるようになりました。この新しい機能により、開発環境と本番環境間でモデルを簡単に移行できます。モデルには変数、トレーニング、調整、使用されるModel Serviceのバージョン番号など、モデルの実行に必要なすべての情報が含まれます。エクスポートされたモデルはbase64で暗号化されます。	DCN-561 DCN-562 DCN-625 DCN-612
ライブラリ	Decisionの [ライブラリ] ページで以下の機能が強化されました。 <ul style="list-style-type: none"> • フィルターが追加されました。 [フィルター] アイコンをクリックしてアクセスし、ユーザーは識別番号、名前、モデルを作成または編集した日付範囲でモデルにフィルターを適用できます。 • 各モデルの行から [インライン] アイコンが削除され、 [ライブラリ] ページの上部に新しい機能の新しいアイコンが表示されます。代わりに [選択済み] 列の各行にチェックボックスが追加されました。これによりユーザーは複数のモデルで同時にアクションを実行できます。 • ユーザーは [選択済み] チェックボックスを使用して [削除] をクリックすると、複数のモデルを同時に削除できるようになりました。 • [カウントを使用] 列の名前が [合計予測] に変更されました。 • モデルの作成に使用されたModel Serviceのバージョンが表示されるようになりました。ユーザーはモデルを更新して最新のModel Serviceを使用できます。 	DCN-568 DCN-565 DCN-434 DCN-593 DCN-588 DCN-590
予測履歴	予測履歴が強化されました。 <ul style="list-style-type: none"> • 情報はオーバーレイ画面ではなく、ライブラリのあるメイン画面に表示されます。 • フィルターが追加されました。これらは [フィルター] アイコンをクリックしてアクセスできます。ユーザーは関連ID、モデル結果、タイムスタンプを使用して予測履歴にフィルターを適用できます。 	DCN-529 DCN-567 DCN-346
ユーザーインターフェイス	ユーザーインターフェイスに、次の改良が全般的に行われました。 <ul style="list-style-type: none"> • プラグイン名は [Blue Prism Decision] ではなく [Decision] として表示され、これは各ページの上部に表示されるパスにも反映されます。 • 表示される機能をよりわかりやすく、より正確に反映するようにラベルが変更されました。 • 便利なツールチップが追加されました。利用できる場合は疑問符 [?] アイコンで表示されます。ユーザーが [?] をクリックすると、詳細情報が表示されません。 	DCN-453 DCN-434 DCN-113 DCN-602

詳細については「」 [Decisionユーザーガイド](#) を参照してください

Interact

Interactプラグインの改善と修正については、 [Interact 4.6リリースノート](#) を参照してください。

既知の問題

このリリースに関する重大な問題のリストについては、次のナレッジベースで維持されます。

- Hubの既知の問題については、[こちら](#)をクリックしてください。
- Decisionの既知の問題については、[こちら](#)をクリックしてください。
- Interactの既知の問題については、[こちら](#)をクリックしてください。

セキュアな開発ポリシー

セキュアな開発ポリシーの一環として、Blue Prism製品は以下のセキュリティ基準で評価されています。

- OWASP Top 10 – アプリケーション開発に最も大きなリスクをもたらすセキュリティ脆弱性。[詳細情報](#)
- SANS CWE Top 25 – ソフトウェア開発業界で最も一般的に見られるソフトウェアセキュリティの脆弱性。[詳細情報](#)
- 連邦情報処理標準 (FIPS) 文書 140-2 – 情報技術製品の暗号化モジュールに対する最小セキュリティ要件を定義した米国政府規格。
- ペイメントカード業界データセキュリティ基準 (PCI DSS)。
- 医療保険の携行性と責任に関する法律 (HIPAA)。
- 連邦情報セキュリティマネジメント法 (FISMA)。

コンプライアンスハイライト サマリーレポートを入手するには、製品サポートにリクエストしてください。

Hub 4.5 – 2021年11月

このリリースノートは、Blue Prism Hub 4.5のリリース用です。

機能強化

このバージョンのHubには、次の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明	参考資料
高可用性	<p>Blue Prism Hubは、高可用性インフラストラクチャのサポートを強化しました。組織のロードバランサー、RabbitMQクラスター、SQL Serverクラスターでは、Blue Prism Hubサーバーの複数のインスタンスを使用できるため、Blue Prism環境のユーザーに対する可用性が向上します。</p> <p>詳細については、高可用性構成ガイドを参照してください。</p>	HUB-1164
インストーラーとアップグレーダー	<p>Hubインストーラー、HubおよびInteractのアップグレーダーに対して、以下の機能強化が行われました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカリゼーション – ユーザーがウィザードの最初の画面で言語を選択できるようになりました。サポートされている言語のリストについては、「ローカリゼーション」を参照してください。 Blue Prism Decisionの設定 – ユーザーがBlue Prism DecisionのURLと証明書を入力できるように、新しいオプション画面がHubインストーラーに追加されました。 Blue Prism Decision SQLを構成 – DecisionのURLを構成すると、追加の画面が表示されます。この新しい画面では、Decisionのデータベースを構成できます。 Blue Prism APIのURL画面 – [スキップ] ボタンが追加され、ユーザーはAPI URLの設定をスキップして、ウィザードの次の部分に進むことができます。 <p>詳細については、「Hubのインストールガイド」または「アップグレードガイド」を参照してください。</p>	HUB-2443
Audit	<p>Hub管理者が、他の管理者のパスワードを変更できるようになりました。また、[Hub Audit] エリアの [ユーザー管理] 監査カテゴリに、新しく [パスワードを変更] イベントタイプが追加されました。パスワードの変更が生じると、Hub管理者は以下を確認できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 変更を行ったユーザーのユーザー名 パスワードが変更されたユーザーのユーザー名 イベントが発生した日付 変更が行われたコンピューターのIPアドレス 発生したイベントのカテゴリ 	HUB-1312 HUB-1522

修正と改良

このバージョンのHubには、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明	参考資料
Hubの役割	Hub管理者の役割を割り当てられているHubユーザーは、Hub設定ページにアクセスできるようになりました。これまでは、Hub許可を持つユーザーがHub管理者の役割を割り当てられている場合、Hub設定ページへのアクセスは拒否されていました。	HUB-2374

プラグインの更新

Automation Lifecycle Management(ALM)

このバージョンのALMプラグインに、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明	参考資料
Wireframer	Wireframeアクション名は、アクション名が一意になるように大文字と小文字を区別しなくなりました。2つのアクションに同じ名前(ひとつは大文字、もうひとつは小文字)が付けられている場合、エラーメッセージが表示され、2つのアクションのうち最初のアクションのみが作成されます。これまでは、2つのアクションが別々に作成されていました。	HUB-2913

Control Room

このリリースでは、Control Roomプラグインは変更されていません。

Decision – Hub 4.5の新機能

Blue Prism Decisionを使用すると、Digital Workforce内でインテリジェントな機械学習の意思決定モデルをトレーニングおよびデプロイできます。データサイエンスの専門知識は不要です。Blue Prism Decisionのシンプルで直感的なユーザーインターフェイスを使用すると、以下ができるようになります。

- **モデルの定義** – タイトル、説明、判断タイプ、判断変数を追加します。
- **モデルのトレーニング** – モデルサービスが指定した定義済みの入力変数に基づいたアクティブラーニングを使用します。統計的に精度が高い機械学習モデルを作成するためにデータサイエンスの知識が必要とされることはありません。
- **モデルの調整** – モデルの入力と結果の予測をレビューし、必要に応じてモデルの判断を上書きします。

Blue Prism Decisionは、新しくライセンス管理されたプラグインで、4.5で使用できます。詳しくは、オンラインヘルプの「[Decision](#)」を参照してください。

Interact

Interactプラグインの改善と修正については、「[Interact 4.5リリースノート](#)」を参照してください。

既知の問題

このリリースに関する重大な問題のリストについては、次のナレッジベースで維持されます。

- Hubの既知の問題については、[こちら](#)をクリックしてください。
- Decisionの既知の問題については、[こちら](#)をクリックしてください。
- Interactの既知の問題については、[こちら](#)をクリックしてください。

セキュアな開発ポリシー

セキュアな開発ポリシーの一環として、Blue Prism製品は以下のセキュリティ基準で評価されています。

- OWASP Top 10 – アプリケーション開発に最も大きなリスクをもたらすセキュリティ脆弱性。[詳細情報](#)
- SANS CWE Top 25 – ソフトウェア開発業界で最も一般的に見られるソフトウェアセキュリティの脆弱性。[詳細情報](#)
- 連邦情報処理標準 (FIPS) 文書 140-2 – 情報技術製品の暗号化モジュールに対する最小セキュリティ要件を定義した米国政府規格。
- ペイメントカード業界データセキュリティ基準 (PCI DSS)。
- 医療保険の携行性と責任に関する法律 (HIPAA)。
- 連邦情報セキュリティマネジメント法 (FISMA)。

コンプライアンスハイライト サマリーレポートを入手するには、製品サポートにリクエストしてください。

Hub 4.4.1 – 2021年10月

このリリースノートは、オンプレミス構成で提供されるBlue Prism Hubの4.4.1リリース用です。

Control Room

このバージョンのControl Roomには、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明	参考資料
アプリケーション	Control Roomダッシュボードのダッシュボードウィジェットの問題が修正されました。ウィジェットにデータが表示され、フィルターが意図したとおりに機能するようになりました。Hubバージョン4.4では、この問題によりウィジェットにデータが表示されず、ウィジェットにフィルターを適用すると空白のページが表示されます。	HUB-2447

既知の問題

このリリースで顕著な問題のリストは、知識ベースで維持されます。詳細については、[こちら](#)をクリックしてください。

セキュアな開発ポリシー

セキュアな開発ポリシーの一環として、Blue Prism製品は以下のセキュリティ基準で評価されています。

- OWASP Top 10 – アプリケーション開発に最も大きなリスクをもたらすセキュリティ脆弱性。[詳細情報](#)
- SANS CWE Top 25 – ソフトウェア開発業界で最も一般的に見られるソフトウェアセキュリティの脆弱性。[詳細情報](#)
- 連邦情報処理標準 (FIPS) 文書 140-2 – 情報技術製品の暗号化モジュールに対する最小セキュリティ要件を定義した米国政府規格。
- ペイメントカード業界データセキュリティ基準 (PCI DSS)。
- 医療保険の携行性と責任に関する法律 (HIPAA)。
- 連邦情報セキュリティマネジメント法 (FISMA)。

コンプライアンスハイライトサマリーレポートを入手するには、製品サポートにリクエストしてください。

4.4.0から4.4.1へのアップグレード

Blue Prismは、最新のプラグインファイルをBlue Prismポータルに公開しました。これにより、Hub管理者はプラグインを4.4.0から4.4.1に更新し、Control Roomウィジェットの使用を復元できます。

⚠ プラグインファイルを更新するには、Hub管理者である必要があります。プロセスの一部としてシステムが再起動するため、プラグインは他のユーザーがログインしていないシステム保守期間中に更新する必要があります。

4.4.0から4.4.1に更新するには:

1. 4.4.1 HubプラグインパッケージをBlue Prismポータルからダウンロードし、コンピューターのフォルダーに解凍します。
2. Hubで、プロファイルアイコンをクリックして **設定**] ページを開き、 **プラグイン管理**] をクリックします。
プラグイン管理] ページが表示されます。
3. **プラグインを追加**] をクリックします。
開く] ダイアログが表示され、ローカルファイルを検索します。
4. 手順1からフォルダーに移動し、プラグインパッケージから解凍したすべてのプラグインファイルを選択して **OK**] をクリックします。
ファイルが正常にアップロードされたことを示す通知メッセージが表示されます。
5. ブラウザーウィンドウの **更新**] アイコンをクリックして、 **プラグイン管理**] ページを更新します。
すべて更新] アイコンがアクティブ化され、更新するプラグインの数を示す番号が表示されます。
6. **すべて更新**] をクリックします。
更新の進行状況とインストールされているプラグインのリストを示すメッセージが表示されます。
7. **プラグインをインストール**] 画面で **OK**] をクリックしてサイトを再起動します。
サイトの再起動メッセージが表示されます。これは数分間表示されます。再起動後、プラグインは4.4.1.xの形式のバージョン番号(4.4.1.2など)で表示されます。
更新されたシステムを使用する準備ができました。

Hub 4.4 – 2021年9月

このリリースノートは、オンプレミス構成で提供されるBlue Prism Hubの4.4リリース用です。

機能強化

このバージョンのHubには、次の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明	参考資料
アプリケーション	<p>ユーザーインターフェイスに、次の改良が行われました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 送信プロセスの進行中にフィールドを編集できなくなりました。 情報の編集または選択時に、黄色の枠線が、フォーカスされているフィールドの周りに表示されるようになりました。 ドロップダウンリストがコンボボックスに置き換えられました。アイテムの名前をテキストフィールドに入力し始めると、表示されたオプションがフィルターされて、テキストに一致する項目のみが表示されます。 	<p>INTER-56</p> <p>HUB-1557</p> <p>HUB-1714</p>
Audit	<p>次のカテゴリとイベントが「Auditページ」に追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネスプロセス <ul style="list-style-type: none"> 作成済みビジネスプロセス アクティブ化済みビジネスプロセス 廃止済みビジネスプロセス プロセス定義 (ALMプラグインがインストールされている場合のみ) <ul style="list-style-type: none"> 作成済みプロセス定義 削除済みプロセス定義 メジャーリリースを増やす - プロセス定義のメジャーバージョンを増やすための監査ログ 開始済みサインオフ プロセス定義をサインオフ 編集済みプロセス定義 完了済みサインオフ Interact (Interactプラグインがインストールされている場合のみ) <ul style="list-style-type: none"> 作成済みフォーム 削除済みフォーム フォームのメジャーバージョンを増加 - プロセス定義のメジャーバージョンを増やすための監査ログ <p>これらのすべてのイベントをサポートするために、Audit機能が追加されました。</p>	<p>HUB-1117</p>
ユーザー管理	<p>Interactに接続していないときに、[ユーザー] エリアで新しいユーザーを作成できるようになりました。</p>	<p>HUB-944</p>
セキュリティ	<p>セキュリティを向上させるため、RabbitMQを使用するアプリケーションには、オプションのシングルソケットレイヤー (SSL) 設定が追加されました。</p>	<p>HUB-74</p>

修正と改良

このバージョンのHubには、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明	参考資料
アプリケーション	「何らかの問題が生じた」というエラーメッセージを表示しながら、Hubが継続的に再ロードしようとしたという問題が解決されました。この問題は、不正なトークン更新によって発生し、Windows認証を使用してSQL Serverで認証を行う環境で報告されました。	HUB-1201
	ALMライセンスを適用してシステムを再起動した後、HubとInteractにアクセスできなかった問題が修正されました。ログイン後に表示される選択画面からHubを選択すると、「HTTPエラー502.5 - ANCMプロセス外起動失敗」というメッセージが表示され、選択画面ではInteractが利用不可と表示されました。Blue Prism HubとBlue Prism Interactに、これらの問題が発生することなくアクセスできるようになりました。	DS-597 HUB-2300 IADA-102
Audit	[Audit] ページの [編集] ビューペインに若干の調整が行われました。以前は、[日付/時刻] というラベルが付けられたフィルターカテゴリ/列の見出しが、一貫性を保つために [作成日] に変更されました。	HUB-1127
Authentication Server	Authentication Serverのログインページでブラウザウィンドウの幅を992px以下に変更すると、言語ドロップダウンリストが無効になるというヘッダースタイルのエラーが修正されました。	HUB-1223
環境管理	以前の失敗した試行の後に、ユーザーが新しい環境をHub環境管理ページに追加できない、という問題が解決されました。これは、試行の失敗後に、接続しているデータベースから環境データがクリアされていないために起こっていました。	HUB-1356

エリア	変更の説明	参考資料
インストーラー	<p>Hubインストーラーには、次の変更が行われました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 前提条件2 – RabbitMQ] 画面：仮想ホストとプロトコルに新しいフィールドが追加されました。 • [Distributed Cache SQL接続] 画面が削除されました。 • [File Service SQL接続設定] 画面が追加されました。これにより、ファイルがサーバーハードディスク上のフォルダーシステムに保存されるのではなく、ファイルを保存するための新しいFile Serviceデータベースが作成されます。 <p>詳細については、「Hubインストールガイド」を参照してください。</p>	HUB-1515 HUB-1516 HUB-1654
	<p>マシンにインターネットアクセスがない場合、または互換性のないバージョンのPowerShell SqlServerモジュールがコンピューターにインストールされている場合でも、インストールに失敗しないようになりました。以前は、列の暗号化スクリプトがオフライン環境で実行された場合、インストールは失敗していました。</p>	HUB-2020
	<p>すべてのサイトのホスト名に、カスタムホスト名を使用できるようになりました。大文字と小文字を組み合わせたことができます。</p> <p>これまではインストール中にデフォルトのホスト名の最初の部分(アプリケーション名)を変更して大文字と小文字が混在した場合、[メール構成] ページ、[Audit] ページ、ライセンスのアップロードなど、Hubの特定のページにアクセスすると500エラーが表示されました。</p>	HUB-906
LDAP	<p>Hubで、10,000人を超えるActive Directoryユーザーと同期できるようになりました。以前は、HubはLDAPサーバーのMaxTempTableSize内で設定されたデフォルトの制限によって制限されていました。</p>	HUB-1538
SMTP	<p>3つ以上の記号を含むSMTPホスト名を [SMTPホスト] フィールドに入力できるようになりました。</p>	HUB-1222
設定	<p>[カスタマイズ] ページの問題が修正されました。以前は、[名前] フィールドに誤った形式のテキストを含むテーマを保存しようとする、システムはエラーメッセージを表示せず、名前の検証を無制限に試みる(そして失敗)していました。</p>	HUB-1134
	<p>[接続を追加] ページで [Windows認証を使用したSQL] が選択されている場合、[接続を追加] ページのデータベース認証ヘッダーがフォームに表示されなくなります。</p>	HUB-1163
	<p>Hubで新しい役割を作成する場合、すべての名前は一意である必要があります。Hubの役割とInteractの役割に同じ名前を付けることはできなくなりました。</p>	HUB-2036
サービスアカウント	<p>サービスアカウント:Interact Remote APIに新しい権限が追加されました。これにより、他のBlue Prism製品でInteract Remote APIをセットアップするときを使用できるサービスアカウントを作成できるようになります。</p>	HUB-1564

プラグインの更新

Automation Lifecycle Management(ALM)

このバージョンのALMプラグインに、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明	参考資料
すべて	また、プロセス定義、ワイヤーフレーム、例外、テンプレートの変更時の使いやすさと読みやすさを向上させるため、ユーザーインターフェイスをさらに改良しました。ユーザーインターフェイスの詳細については、「 ALMユーザーガイド 」	HUB-1093
ビジネスプロセス	ユーザーがビジネスプロセスを廃止できるように、新しい 削除 ボタンが追加されました。ビジネスプロセスは、ビジネスプロセスオーナーのみが削除できません。ビジネスプロセスにプロセス定義または関連付けられたInteractフォームがある場合、削除することはできません。詳しくは、「 ALM – ビジネスプロセス 」を参照してください。	HUB-895
	ビジネスプロセス概要ページの 名前 列と ステージ進行 列のデータを並べ替える場合、最初のクリックでデータをアルファベット順に並べ替え、2回目のクリックで逆アルファベット順に並べ替えます。以前は、並べ替えが間違っ適用され、逆に行われていました。	HUB-1159

エリア	変更の説明	参考資料
プロセス定義	<p>Blue Prism Captureバージョン1.0、2.0、2.1からエクスポートしたJSONファイルをALMにインポートできるようになりました。これにより、ALMユーザーは手動で手順を文書化することなく、迅速かつ効率的にプロセス定義を生成できます。</p> <p>ユーザーは以下を行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> プロセス定義に追加する決定ステップごとに最大15のカスタム選択を追加する。 ステップとセクションをドラッグアンドドロップして、プロセス定義内で並べ替える。 プロセス定義内の特定のセクションまたはステップのすぐ上または下に、セクションとステップを移動する。 自動的にインポートできなかった場合は、不足している画像を手動でアップロードできます。 ALMにまだリストされていないアプリケーションすべてを、インポート時に [アプリケーション] ページに自動的に追加するよう選択する。 <p>次のアイテムがインポートに含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> メモのキャプチャ。 また、プロセス定義でアクションステップを作成するときに、[アクションタイプ] ドロップダウンリストに [カスタムアクション] オプションが追加されました。 ホールドをクリック、リリースをクリック、キーを押す、トリプルクリックのアクション。 <p>詳細については、「JSONファイルをアップロードする」を参照してください。</p>	HUB-593
	<p>プロセス定義を削除できるようになりました。プロセス定義は、Process Definition Documentの所有者のみが削除でき、他のユーザーが編集するためにロックしている場合、削除できません。詳細については、「プロセスを削除する」を参照してください。</p>	HUB-896
	<p>サインオフステータスと呼ばれる新しいフィルターがプロセス定義ページに追加されました。このフィルターでは、サインオフが開始されているがまだ完了していないプロセス定義のみを表示できます。</p>	HUB-496
	<p>プロセス定義ワークフローイベントの監査が追加されました。プロセス定義カテゴリ内のイベントについての詳細は、「Audit」ページを参照してください。</p>	HUB-1117
	<p>要素名] フィールドの最大文字数が50から75に増えました。</p>	HUB-638
	<p>「編集を定義」ページのアクションステップでサムネイルイメージが正しく表示されない、という問題が解決されました。</p>	HUB-1234
Wireframer	<p>[レポートを送信] ボタンをクリックしてもエラーは発生せず、正しいページが開きます。</p>	HUB-1227
	<p>ユーザーが従来のSMTP設定をセットアップし、[レポートの送信] をクリックしたときに誤った通知が表示されるという問題が修正されました。今後は正しい通知が表示されます。</p>	HUB-1171

Control Room

このリリースでは、Control Roomプラグインは変更されていません。

Interact

Interactプラグインの改善と修正については、[Interact 4.4リリースノート](#)を参照してください。

既知の問題

このリリースで顕著な問題のリストは、知識ベースで維持されます。詳細については、[こちら](#)をクリックしてください。

セキュアな開発ポリシー

セキュアな開発ポリシーの一環として、Blue Prism製品は以下のセキュリティ基準で評価されています。

- OWASP Top 10 – アプリケーション開発に最も大きなリスクをもたらすセキュリティ脆弱性。[詳細情報](#)
- SANS CWE Top 25 – ソフトウェア開発業界で最も一般的に見られるソフトウェアセキュリティの脆弱性。[詳細情報](#)
- 連邦情報処理標準 (FIPS) 文書 140-2 – 情報技術製品の暗号化モジュールに対する最小セキュリティ要件を定義した米国政府規格。
- ペイメントカード業界データセキュリティ基準 (PCI DSS)。
- 医療保険の携行性と責任に関する法律 (HIPAA)。
- 連邦情報セキュリティマネジメント法 (FISMA)。


コンプライアンスハイライト サマリーレポートを入手するには、製品サポートにリクエストしてください。

Hub 4.3 – 2021年5月

このリリースノートは、オンプレミス構成で提供されるBlue Prism Hubの4.3リリース用です。

機能強化

このバージョンのHubには、次の新機能と機能強化が導入されています。



エリア	変更の説明	参考資料
Control Room	<p>新しいプラグイン、Control RoomがHubに追加されました。このプラグインは、Blue Prismバージョン7.0以降でのみ使用でき、Blue PrismインタラクティブクライアントのControl Room機能を補完します。</p> <p>新しいControl Roomでは、ダッシュボードとデータビューが提供され、ユーザーはすべての環境のBlue Prismアクティビティを表示および管理できます。Control Roomには、既存のBlue Prismインタラクティブクライアント機能を補完する4つのプラグイン機能があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワークキュー – ワークキュー項目のステータスを監視し、キューアクティビティを追跡します。 • スケジュールとタスク – スケジュールとタスクの表示と監視を行います。 • セッション – 環境内のセッションアクティビティを表示、フィルタリング、整理します。 • Digital Workerの健全性 – 環境内のDigital Workersを表示、監視します。 <p>また、Control Roomプラグインには、ダッシュボードでデータをグラフィカルに表示するために使用できる多数のウィジェットも導入されています。</p>	BP-131 BP-1581
インストーラー	<p>次の新機能がHubインストーラーに追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Authentication Server SQL構成とIIS設定 - ID管理サーバー(IMS)の名前がAuthentication Serverに変更されました。また、Authentication Server機能は、サービスアカウント(Blue Prismプラットフォームの選択したコンポーネントに一元的な認証を使用)やControl Roomプラグインなど、Blue Prism 7.0の新機能を活用する統合を強化しました。 <div data-bbox="373 1435 1264 1525" style="border: 1px solid #00a0e3; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p> インストーラーの [Authentication Server] 画面は、以前のバージョンで使用されていたIMS画面に取って代わるものです。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • Email Service SQL構成 - メール設定では、Microsoft OAuth 2.0認証と既存のユーザー名およびパスワード認証方法がサポートされるようになりました。これをサポートするため、Email Service用のデータベースを構成できるよう、インストーラーに新しい画面が追加されました。 • Email Service IIS設定 - 以前のリリースでは、Email ServiceはEmail Senderと呼ばれていました。インストーラー画面は、この名前変更により更新されました。また、デフォルトのWebサイト名も変更されていますが、デフォルトのURLはemail.localのままです。 • Blue Prism API URL - Blue Prism APIのURLをキャプチャする新しい画面がインストーラーに追加されました。新しいControl RoomプラグインをBlue Prism 7.0で使用するにはこのURLが必要です。このURLがない場合、画面は空白のままになる可能性があります。 	HUB-867 HUB-947 BP-2895

エリア	変更の説明	参考資料
ローカリゼーション	ロシア語とポルトガル語(ブラジル)の2つの言語のサポートが削除されました。ブラウザ設定または以前のバージョンのHubでログインページの言語ドロップダウンを使用して、これらの言語を選択したユーザーには英語が表示されます。	BP-3601
SMTP	『「メール設定」ページは、SMTPによるMicrosoft OAuth 2.0認証、および既存のユーザー名とパスワードの認証方法をサポートするように機能強化されました。SMTP設定に対する変更は監査され、監査]ページで確認できます。	HUB-713
ユーザー管理	<p>『「ユーザー」ページが機能強化されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトで表示されるのは、ライブユーザー(廃止されていないユーザー)のみです。廃止されたユーザーは、ライブ]フィルターの設定を変更することで表示できます。ライブ]フィルターをオフにすると、すべてのユーザーを表示できます。 管理者は、ユーザー]ページでユーザーの情報を表示し、新しいパスワードを変更]アイコンをクリックしてパスワードを変更できます。管理者は、別の管理者のパスワードを変更することはできません。 	HUB-865

修正と改良

このバージョンのHubには、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明	参考資料
ALM	<p>管理者がALMライセンスを以前のバージョンから4.3と互換性のあるバージョンにアップグレードできるように、『「プラグイン管理」ページにライセンスをアップリフト]オプションが追加されました。</p> <p>これにより、ALMライセンス制限を超えたことを示す警告メッセージがシステムの一部のページに表示され続けるという、以前に文書化された既知の問題が解決されます。</p>	HUB-722
	<p>プロセス定義文書(PDD)の作成者は、独自のアクセスレベルを割り当てることができるようになりました。以前は、PDDの所有者がデフォルトとして設定されており、変更できませんでした。現在は共同作成者または表示者となるよう選択できるようになりましたが、少なくとも1人の所有者がない限り、PDDを保存することはできません。</p>	HUB-866
監査	<p>監査]ページの2つの列の名前が変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザー名が監査者に] - 監査レコードをユーザーだけでなくシステムコンポーネントによっても作成できることを反映するために、監査者になりました。 日時が作成日時に] - この列の目的を明確に定義するために、作成日時になりました。 	BP-2935
環境	Hubは、同じサーバーに存在する、つまり同じサーバーのIPまたはホスト名を持つ複数のRPAデータベースへの接続もサポートするよう機能強化されました。以前は複数のデータベースは、異なるサーバー間で接続されていた場合にのみ接続されていました。接続は、既存の『「環境管理」ページを使用して構成されます。	HUB-723

エリア	変更の説明	参考資料
LDAP	<p>HubへのActive Directoryユーザーのインポートが修正されました。以前はActive DirectoryユーザーをHubにインポートする際に、いずれかのActive Directoryユーザーアカウントで、Hub認証設定で定義されたマッピング済み属性のいずれかが欠落していた場合、インポートはすべてのユーザーに対して失敗していました。</p> <p>インポートでは、検出されたユーザーの合計数に対して有効なユーザー数を示すカウンタが表示され、有効なユーザーのリストが表示されるため、管理者はHubと同期する必要なユーザーを選択できます。</p> <p>また、詳細なLDAPログ機能も追加されました。これは、[アプリケーションサーバー]フォルダー内のappsettings.jsonファイルを更新することで有効にできます。lms > Logging > LogLevelで、次の行を追加します。</p> <pre>"ImsServer.IntegrationServices.Services.LdapConnectionService": "Debug"</pre> <p>この変更が完了したら、アプリケーションプールを更新します。</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> 参考:</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規インストールの場合、アプリケーションプールはAuthentication Serverと呼ばれます。 アップグレードされたシステムの場合、アプリケーションプールはIMSと呼ばれます。 </div>	HUB-718
	<p>LDAPを使用してHubにインポートしたユーザーが【パスワードをお忘れですか】リンクをクリックしても、Hub内でパスワードをリセットするためのメールが送信されなくなりました。以前はこのメールが送信され、ユーザーがプロセスを実行した場合、LDAPアカウントに加えてネイティブユーザーアカウントも作成されました。</p> <p>LDAPを使用してHubに同期されたユーザーは、Active Directoryドメインのパスワードを使用してHubにログインします。パスワードをリセットする必要がある場合は、Windowsを使用してリセットしてください。</p>	HUB-1152
ライセンス	<p>プラグインの無効なライセンスファイルのアップロード時に表示されるエラーメッセージが改善されました。管理者が、無効なファイルタイプ、または大きすぎるライセンスファイルをアップロードした場合、[ライセンスキーを更新]機能を使用すると、より詳細なメッセージが表示されます。</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> 100Kb未満の.licファイルのみが受け付けられます。</p> </div>	HUB-841
プラグイン	<p>プラグインリポジトリ内のプラグインをクリックすると、プラグインの概要が表示され、製品の詳細を確認できるリンクが表示されます。このリンクからオンラインヘルプが開きます。プラグインのダウンロードは、概要の下に表示されます。</p>	HUB-972 HUB-1063
SMTP	<p>選択した暗号化方法に従ってメールが送信されるように変更されました。ユーザー名とパスワード認証方式を使用するSMTP設定では、暗号化方式を なし]または SSL-TLS]に設定できます。以前は、Hubは暗号化の設定に関係なく、SSLでメールを送信しようとしていました。</p>	HUB-717

既知の問題

このリリースで顕著な問題のリストは、知識ベースで維持されます。詳細については、[こちら](#)をクリックしてください。

Hub 4.2 – 2021年4月

このリリースノートは、オンプレミス構成で提供されるBlue Prism Hubの4.2リリース用です。

機能強化

このバージョンのHubには、次の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明
アプリケーション	Hubのユーザーインターフェイスが再設計されました。 ヘルプが更新され、変更が反映されました。「」「Hubユーザーガイド」を参照してください。ヘルプは、Hubのサイドナビゲーションのリンクからもアクセスできます。
構成	依存関係のないRPAデータベースをHubから削除できるようになりました。 詳細については、「環境管理」を参照してください。
インストーラー	次の新機能がHubインストーラーに追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> ● 通知センターSQL構成とIIS設定 – Interact内の新しい通知機能を有効にするには、通知センターが必要です。 ● License Manager SQL構成とIIS設定 – ライセンスの管理はHub内から新しいLicense Managerに移動しました。この利点は、Hubが利用できない場合でもInteractにアクセスできることです。以前は、Hubが使用できない場合、Interactも使用できませんでした。 ● SignalR IIS設定 – これはInteractインストーラーから取り除かれ、Hubインストーラーに移動されました。
ライセンス	<p>ライセンスタスクを処理する新しいWebサイト (License Manager) が作成されました。この利点は、HubがオフラインでもユーザーはInteractにアクセスできることです。以前は、Hubがライセンスタスクを処理していましたが、Hubがオフラインの場合、Interactも使用できませんでした。新しいWebサイトは、Hubインストーラーを使用してインストールおよび構成されます。</p> <p>すべてのライセンスが使用されている場合、Hubに警告が表示されます。たとえば、すべてのALMライセンスが割り当てられている場合、ユーザーや役割に対してメッセージが表示されます。</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Automation Lifecycle restriction: 3/0</p> <hr style="border: 1px dashed orange;"/> <p>WARNING: You are in breach of your license, please remove users, remove the ALM plugin or get in contact with your Accounts Manager for more information</p> </div>
ローカリゼーション	IMSログインページとHubが、ブラウザーで設定したユーザーの言語設定セットと互換性のある言語で表示されるようになりました。ユーザーがブラウザー設定でサポートされていない言語を選択した場合、デフォルトとして英語が使用されます。必要に応じて、ユーザーはログインページのドロップダウンリストから使用する言語を手動で変更できます。
サポート対象のソフトウェア	HubはAzure SQL Databaseの使用をサポートするようになりました。

修正と改良

このバージョンのHubには、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明
監査	<p>次のイベント オプションが「監査ページ」に追加されました:</p> <ul style="list-style-type: none"> 送信されたフォーム 却下されたフォーム 承認されたフォーム <p>Digital Worker] カテゴリが 監査] ページから削除されています。これにより、次のイベント オプションも削除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 編集されたDigital Workerログ 廃止された仮想ワーカーログ ライブになった仮想ワーカーログ
構成	<p>次のフィールドが削除されたか、置き換えられました。</p> <ul style="list-style-type: none"> メール設定 の SMTPホスト] フィールドが修正され、設定された制限的な検証が削除されました。組織のSMTPホスト名はフィールドに入力され、フィールドによって承認されるようになりました。 [ADA URL] フィールドは、環境マネージャー からアクセスするデータベース接続情報から削除されました。 ユーザーのパスワードを作成] チェックボックスが ユーザーの作成] ページから削除されています。代わりに、新しいユーザーの詳細を入力し ユーザーを作成] をクリックすると、新しい パスワードを作成] ダイアログが表示されます。ここから、管理者はパスワードを作成するか、パスワード更新メールをユーザーに送信するかを選択できます。
ユーザーインターフェイス	<p>ビジュアルカスタマイズのレベルが縮小されました。UIのカスタマイズは、以下に制限されるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマ名 ブランドカラー ブランドロゴ <p>詳細については、「カスタマイズ」を参照してください。</p>

既知の問題

このリリースで顕著な問題のリストは、知識ベースで維持されます。詳細については、[こちら](#)をクリックしてください。

Hub 4.1 – 2020年11月

このリリースノートは、オンプレミス構成で提供されるBlue Prism Hubの4.1リリース用です。

アップグレード

Blue Prism InteractおよびHubアップグレーダーは、カスタマーポータルからダウンロードできます。この使いやすいツールは4.0から4.1にアップグレードされます。詳しくは、「[HubとInteract 4.0をバージョン4.1にアップグレードする](#)」を参照してください。

機能強化

このバージョンのHubには、次の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明
認証	LDAPを用いたActive Directory認証を使用して、シングルサインオンの利点を活用できるようになりました。この接続が確立されると、ユーザーは会社のログインを使用してHubまたはInteractにサインインできるようになります。これにより、Hub管理者がローカルユーザーを設定する必要がなくなります。
インストーラー	Hubインストーラーに、以下の機能強化が行われました。 <ul style="list-style-type: none"> • サーバーマネージャーの役割と機能の自動インストール - インストール後にVMを再起動する必要があります。すぐに再起動するか、後で再起動するかを選択できます。 • インストール後に、appsettings.jsonファイル内でcustomeridキーを手動で更新するのではなく、新しい画面で顧客IDを入力できるようになりました。 • SQL画面の強化： <ul style="list-style-type: none"> • 接続をテスト]ボタン - 入力した情報でSQL接続を正常に確立できることを確認します。接続が正常に完了しないと、インストールの次のステップに進めません。 • 前のSQL画面から継承された値 - ユーザーは複数の画面で同じSQL情報を入力する必要がなくなります。
ツール	接続文字列の暗号化と復号のための新しいツールが追加されました。セキュリティ上の理由から、すべてのWebサイトのappsettings.jsonファイルは暗号化されます。このファイルの構成設定に変更が必要な場合、暗号化/復号コンソールアプリケーションによって、ファイルを復号してから、再度暗号化できます。詳細については、「 Blue Prism Data Protectorツール 」を参照してください。

修正と改良

このバージョンのHubには、次のような修正とマイナーな改良が加えられました。

エリア	変更の説明
認証	以前は、Hubデータベース設定でWindows認証が選択されていた場合、ユーザー名とパスワードのフィールドが引き続き使用可能でした。【Windows認証】オプションが選択されている場合、これらのフィールドは使用できなくなりました。これにより、潜在的なSQLエラーの可能性が軽減されます。
インストーラー	Hubインストーラーに、以下の改良が行われました。 <ul style="list-style-type: none">インストーラーが、Blue Prism BaseからBlue Prism Hubに名称変更されました。最大ユーザー数の増加 – 以前は、最大プールサイズにデフォルト値が使用されていました。最大プールサイズが500に設定され、より多くのユーザーが使用できるようになりました。法的および視覚的な強化：<ul style="list-style-type: none">使用許諾契約書 (EULA) が再フォーマットされました。インストーラー全体で、発行者名が「Blue Prism Limited」に更新されました。

既知の問題

このリリースで顕著な問題のリストは、知識ベースで維持されます。詳細については、[こちら](#)をクリックしてください。

Hub 4.0 – 2020年9月

このリリースノートは、オンプレミス構成で提供されるBlue Prism Hubの4.0リリース用です。

機能強化

このバージョンのHubには、次の新機能と機能強化が導入されています。

エリア	変更の説明
プラグイン	<p>Hubのプラグインリポジトリには、以下の機能強化が行われました。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべてのプラグイン、無料プラグイン、ライセンス済みプラグインのドロップダウンの区別 すべてのプラグイン、無料プラグイン、ライセンス済みプラグインのラベルの区別 「ライセンスファイルを入力」モーダル 「プラグインライセンスを更新」タブ 「ライセンスを更新」モーダル <p>Hubのプラグイン有効期限機能に、以下の機能強化が行われました。</p> <ul style="list-style-type: none"> プラグインの有効期限がまもなく切れるときに警告が表示されるようになりました プラグインライセンスの期限が切れると、以下にアクセスできなくなります。 <ul style="list-style-type: none"> Interactプラグイン
カスタマイズ	<p>Hubのカスタマイズ機能に以下の変更が加えられました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいデフォルトのBlue Prismインラインイメージ IMSの新しいデフォルトのBlue Prismロゴ画像 「会社」と「ストラップライン」の値が「カスタマイズ」から削除されました
インストーラー	ベースインストーラー
セキュリティ	<p>Hubのセキュリティ向上のため、次の機能強化が追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> IMSのコード難読化 Hubのコード難読化

プラグインの更新

リリースでは多数のプラグインが提供されます。新しいプラグインと更新されたプラグインを以下に示します。

更新されたプラグイン

プラグイン	説明
Interact	Interactフォームの作成時に、優先度とSLAが必須フィールドではなくなりました。

既知の問題

このリリースで顕著な問題のリストは、知識ベースで維持されます。詳細については、[こちら](#)をクリックしてください。